

在欧州・トルコ日系製造業の経営実態

—2011 年度調査—

2012 年 1 月

日本貿易振興機構(ジェトロ)

海外調査部

はしがき

「在欧州・トルコ日系製造業の経営実態」調査は、1983年の第1回以来〔※〕、27回目の実施となった。今回の調査（2011年7～8月実施）では、欧州とトルコで操業する日系製造業の進出状況、ならびに日系製造業各社の活動の実態（各企業の営業損益見通し、経営上の問題点、部材調達・販売・生産体制等）を調査・分析した。

欧州とトルコでは、2010年末時点で1,108社（西欧834社、中・東欧257社、トルコ17社）の日系製造業の進出が確認された。また、2010年の新規進出企業数は25社（西欧13社、中・東欧12社）であった。進出日系製造業のうち、323社が、R&D・デザインセンターを併設して設置している。また、製造を行わずR&D・デザインセンターのみを設置している日系企業数は157社であった。

本調査が長期にわたり、充実の度を加えて報告できるのはひとえに、企業各位から真摯な回答を頂いたからであり、ここに深く感謝申し上げます。本報告書が、企業各位や欧州・トルコでの事業展開にご関心をお持ちの方々のご参考になれば幸いです。

2012年1月

日本貿易振興機構（ジェトロ）
在欧州・トルコジェトロ事務所
海外調査部 欧州ロシア CIS 課

※98年から中・東欧を、99年からトルコを調査対象に加えた。

【免責条項】

ジェトロは、本報告書の記載内容に関して生じた直接的、間接的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失については、一切の責任を負いません。
これは、たとえジェトロがかかる損害の可能性を知らされていても同様とします。

目 次

調査の概要	1
在欧州・トルコ日系製造業の生産拠点数（地図）	2
第1表：在欧州・トルコ日系製造業の国別進出動向（各年末時点）	3
第2表：在欧州・トルコ日系製造業の業種別進出動向（各年末時点）	4
第3表：在欧州・トルコ日系製造業の国別・業種別内訳（各年末時点）	5
第4表：在欧州・トルコ進出日系企業が有する R&D デザインセンター新規進出動向及び 2010 年末の合計数	6
2011 年在欧州・トルコ日系製造業の経営実態調査概要	7
I. 在欧州・トルコ日系製造業の概況	8
II. 在欧州・トルコ日系製造業の経営の現状および見通し	12
III. 調達・販売・生産	23
IV. 経営上の問題点	38
V. FTA が与える影響	45
VI. 東日本大震災の影響と対応	48
付属資料	
"	
集計表	
質問表	

調査の概要

本調査は、1983 年以来、在欧州・トルコのジェトロ事務所を通じて継続的に実施しているもので、今回が 27 回目となる。

1. 調査目的

日本企業の経営戦略立案や事業活動の円滑化に資することを目的に、欧州・トルコにおける日系製造業の活動の実態（各企業の営業損益見通し、経営上の問題点、販売・部材調達・生産体制）を調査・分析する。

2. 調査対象

西欧 17 カ国*、中・東欧 10 カ国**、およびトルコにおいて、直接出資および間接出資を含めて日本の親会社の出資比率が 10%以上の製造業企業を調査対象とした。欧州あるいは欧州以外に進出している日系企業により設立された企業（孫会社）も含む。また、現地で法人登記を済ませているものの、操業に至っていない企業も含んでいる。

* 西欧 17 カ国（英国、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、オランダ、ベルギー、スウェーデン、アイルランド、ポルトガル、デンマーク、オーストリア、フィンランド、スイス、ルクセンブルク、ノルウェー、ギリシャ）

**中・東欧 10 カ国（チェコ、ポーランド、ハンガリー、ルーマニア、スロバキア、ブルガリア、リトアニア、セルビア、モンテネグロ、スロベニア）

3. 調査方法

アンケート調査は、回答者の電子メールアドレスに、アンケート調査フォームの画面を掲載したインターネット・アドレス（URL）を通知し、この画面に直接回答を入力していただいた。ただし、一部は郵送・ファックスにより調査票を発送し、回答結果を集計する方法を併用した。

国別・業種別進出企業数の調査は、前回（26 回目）の調査結果をベースに、前回調査以降に進出した企業（撤退した企業）を、可能な限り正確に把握することに努めた。作業過程で前回調査にて把握できなかった 2009 年以前に設立し、その後撤退した企業を追加、削除している。

4. 調査期間

2011 年（平成 23 年）7～8 月

5. 回収状況

欧州・トルコへの進出が確認された日系製造業 1,108 社のうち、本調査への協力を表明いただいた 547 社にアンケートを送付し、373 社から回答を得た（有効回収率 68.2%）。

6. 調査結果に関する留意点

(1)進出企業数は、在欧州・トルコのジェトロ事務所が信頼できると思われる情報ソースを用い、各企業の協力の下で集計したが、情報の完全な正確性・網羅性を保証するものではない。

(2)アンケートに回答した企業が、各設問にすべて回答したわけではない。比率は各設問の有効回答数に対する値を%で表示(小数点第 2 位以下四捨五入)している。また、合計が 100.0%に合計がならない場合がある。

在欧州・トルコ日系製造業の拠点数

2010 年末時点

欧州・トルコ: 1,108

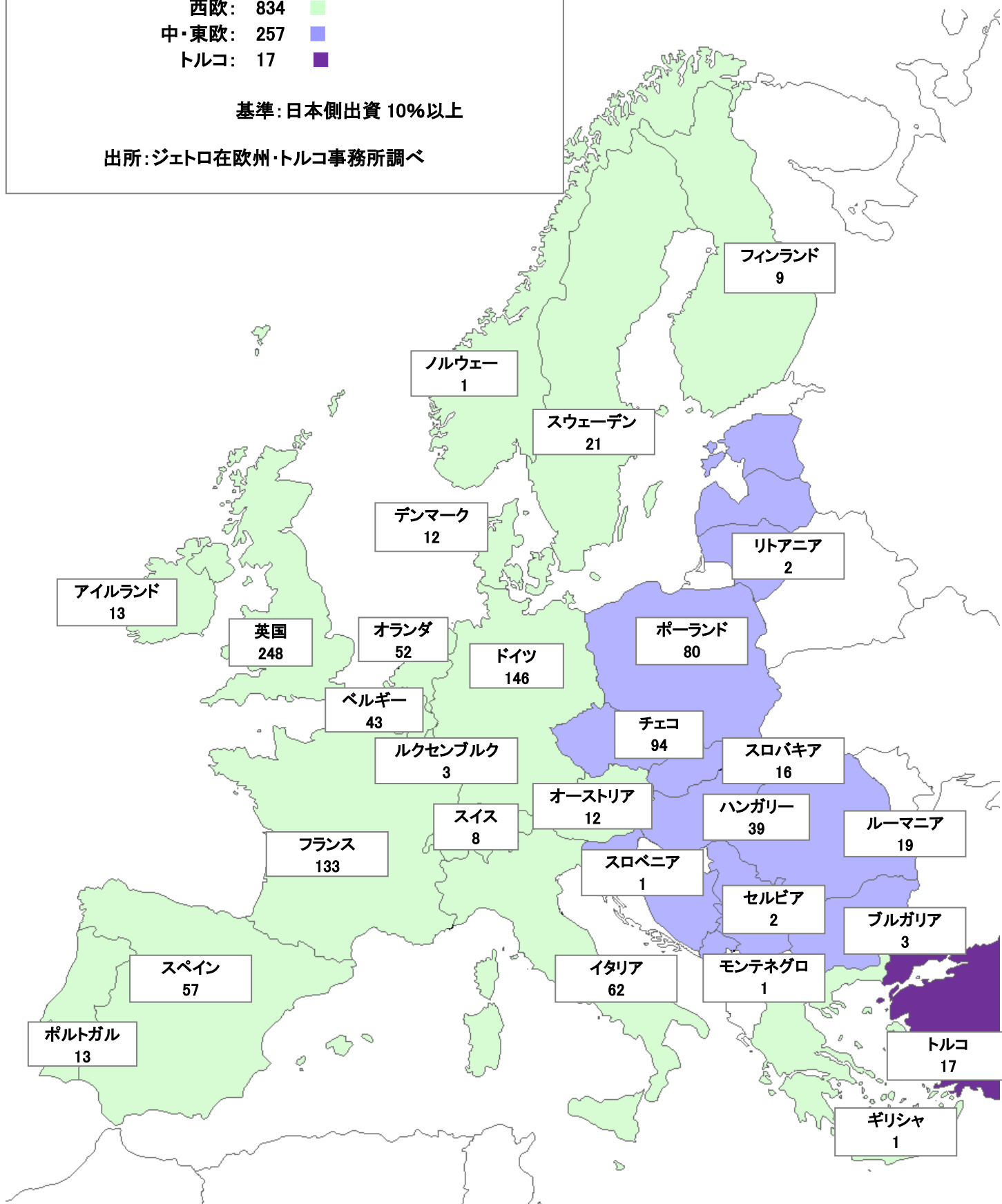
西欧: 834

中・東欧: 257

トルコ: 17

基準: 日本側出資 10%以上

出所: ジェトロ在欧州・トルコ事務所調べ



第1表 在欧州・トルコ日系製造業の国別進出動向(各年末時点)

	～79年	80年	81年	82年	83年	84年	85年	86年	87年	88年	89年	90年	91年	92年	93年	94年	95年	96年	97年	98年	99年	00年	01年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	
英国	32	44	49	57	67	75	87	107	141	170	219	265	281	293	293	305	320	337	351	366	366	370	376	364	353	328	308	290	268	254	249	248	
ドイツ	33	35	37	45	47	52	56	66	79	87	105	120	134	140	139	140	149	145	145	146	148	146	151	153	148	149	141	148	142	140	146	146	
フランス	27	33	39	45	50	58	70	84	99	110	133	147	162	167	159	166	162	171	171	176	171	180	187	185	191	196	194	196	157	132	133	133	
イタリア	14	17	20	21	22	21	23	30	33	40	53	64	70	70	69	72	70	73	71	74	75	75	78	77	78	75	77	73	67	63	63	62	
スペイン	21	24	26	29	33	37	38	41	48	56	67	74	83	80	80	85	81	76	77	79	81	81	85	81	78	77	76	71	65	59	60	57	
オランダ	13	14	17	20	23	24	28	34	36	34	44	44	51	54	57	59	58	62	63	66	70	69	71	64	60	58	60	62	60	53	52	52	
ベルギー	18	19	23	24	25	26	27	31	34	36	44	53	57	60	59	60	60	61	63	61	63	58	58	55	55	55	52	49	46	41	42	43	
スウェーデン	1	1	1	1	1	3	3	7	8	9	11	11	14	17	20	19	20	23	21	22	23	25	25	24	25	23	21	22	21	21	21	21	
アイルランド	10	13	14	16	16	19	19	21	22	26	31	38	39	39	41	42	42	41	41	38	33	31	27	26	26	27	24	23	20	15	12	13	
ポルトガル	8	8	9	9	9	8	8	8	8	11	15	18	16	18	19	18	20	21	22	24	23	22	24	23	20	20	20	18	20	17	13	13	
デンマーク	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	4	3	2	2	1	2	3	4	4	3	2	4	5	7	8	10	10	10	13	11	12	
オーストリア	1	1	1	2	2	3	3	6	9	10	13	16	16	18	18	18	15	14	14	14	14	14	11	11	11	11	11	10	11	12	12	12	
フィンランド	3	4	4	4	4	4	5	7	7	8	8	8	9	11	11	12	14	15	17	17	17	17	17	8	9	9	9	9	8	9	10	9	
スイス	4	4	4	4	4	4	4	5	8	9	9	11	11	12	12	11	11	11	11	9	10	8	8	8	3	3	4	4	6	6	8	8	
ルクセンブルク	0	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	3	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3	2	2	3	
ノルウェー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
ギリシャ	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	1	
アイスランド	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
西欧	189	221	248	283	309	340	377	454	540	614	761	880	954	989	987	1,016	1,032	1,060	1,078	1,103	1,104	1,105	1,129	1,091	1,070	1,045	1,013	992	906	840	837	834	
チェコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	8	11	12	15	19	22	23	26	32	46	62	72	83	85	86	91	89	90	94	
ポーランド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	3	6	7	9	16	20	21	25	34	43	47	54	71	77	78	76	80	
ハンガリー	1	1	1	1	1	2	2	2	3	3	3	4	7	8	10	14	15	17	22	25	31	39	41	43	46	49	50	53	53	49	42	39	
ルーマニア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	2	3	3	5	8	7	9	11	13	17	18	20	18	19	
スロバキア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	5	5	6	10	10	9	10	12	15	17	16	17	16	
ブルガリア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	3	3	3	
リトアニア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	
セルビア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	2
モンテネグロ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
スロベニア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1
中・東欧	1	1	1	1	1	2	2	2	3	3	3	4	11	17	25	30	37	46	58	73	86	104	132	159	182	204	218	250	264	260	251	257	
年間設立企業数(欧州)	190	222	249	284	310	342	379	456	543	617	764	884	965	1,006	1,012	1,046	1,069	1,106	1,136	1,176	1,190	1,209	1,261	1,250	1,252	1,249	1,231	1,242	1,170	1,100	1,088	1,091	
トルコ	0	1	1	1	1	1	1	1	2	3	3	3	4	5	5	6	7	7	8	8	8	8	9	12	15	16	16	16	17	17	17	17	
年間設立企業数(合計)	190	223	250	285	311	343	380	457	545	620	767	887	969	1,011	1,017	1,052	1,076	1,113	1,144	1,184	1,198	1,217	1,270	1,262	1,267	1,265	1,247	1,258	1,187	1,117	1,105	1,108	

(注) 製造拠点のみで、単独R&D・デザインセンターは含まない。

第2表 在欧州・トルコ日系製造業の業種別進出動向（各年末時点）

	～79年	80年	81年	82年	83年	84年	85年	86年	87年	88年	89年	90年	91年	92年	93年	94年	95年	96年	97年	98年	99年	00年	01年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	
食品・農水産加工	6	7	7	8	10	11	12	14	19	24	35	38	43	45	44	47	50	57	58	59	62	61	60	57	61	63	63	65	59	60	59	59	
繊維 (紡績・織物・化学繊維)	8	8	8	9	9	9	9	10	11	12	14	17	18	16	16	17	17	17	15	16	16	17	19	18	17	16	15	15	10	9	9	9	
衣服・繊維製品	4	6	8	9	10	11	11	12	15	17	22	26	30	32	31	30	28	28	28	27	27	23	24	23	23	21	21	21	19	15	14	14	
木材・木製品 (家具・インテリア製品を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	2	3	5	5	5	5	5	8	8	8	7	7	7	7	7	7	
家具・インテリア製品	1	1	1	1	1	2	2	4	5	6	7	11	10	10	8	7	6	6	6	6	7	7	7	5	5	5	5	3	2	2	2	2	
紙・パルプ	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	3	6	7	8	9	10	11	11	11	11	12	11	11	11	9	8	9	9	9	9	9	7	
化学品・石油製品	28	30	30	35	35	41	41	62	86	90	106	117	121	130	134	137	139	142	146	152	158	157	155	142	143	145	127	124	117	104	101	101	
プラスチック製品	11	11	12	12	14	15	16	16	19	25	30	34	38	38	39	39	40	43	44	44	46	44	47	42	42	44	48	49	52	46	46	45	
医薬品	7	8	8	11	12	14	14	17	19	20	26	30	34	34	33	36	37	39	41	42	41	40	40	41	40	40	36	37	31	28	28	32	
ゴム製品	0	0	0	1	2	4	6	7	8	13	16	19	21	20	21	21	20	21	22	23	24	24	25	24	26	27	27	28	27	25	25	25	
窯業・土石	5	6	12	13	13	12	13	13	14	15	18	19	28	29	32	32	34	36	37	38	37	38	39	39	39	38	38	43	40	38	38	38	
鉄鋼 (鋳鍛造品を含む)	7	7	7	7	8	9	10	10	13	13	14	15	15	16	13	14	13	12	12	12	10	13	13	14	13	13	11	11	9	8	8	7	
非鉄金属	2	2	2	3	3	3	3	4	4	6	9	10	10	10	12	13	13	10	11	11	11	11	10	10	10	9	8	6	6	6	6	7	
金属製品 (メッキ加工を含む)	0	0	0	0	0	1	1	4	4	6	11	15	20	21	22	23	23	23	22	23	23	20	19	19	21	23	25	25	25	25	27	26	
一般機械 (金型・機械工具を含む)	23	27	30	31	37	39	48	58	69	76	96	110	122	130	129	134	136	141	143	149	149	152	157	162	164	163	163	160	155	151	153	152	
電気機械・電子機器	27	31	35	43	48	52	60	68	80	92	107	127	140	142	138	145	141	143	146	144	139	143	133	125	121	119	118	105	104	103	107		
電気・電子部品	12	16	20	23	25	29	33	37	45	53	68	85	88	88	89	92	94	96	102	105	102	108	108	110	105	103	104	109	102	86	82	84	
輸送用機器 (自動車・二輪車)	5	10	11	11	12	15	17	18	19	19	20	25	28	29	27	27	28	27	27	28	26	26	28	28	26	25	25	24	26	25	25	23	
輸送用機器部品 (自動車・二輪車)	10	15	15	15	18	20	23	30	38	47	62	77	82	93	98	100	118	131	139	152	163	184	213	231	243	244	246	254	242	233	227	227	
精密機械	8	10	13	16	16	16	18	27	29	30	34	33	35	38	39	40	44	43	46	47	52	52	55	52	51	48	48	46	41	36	37	37	
医療機器	4	5	5	7	7	7	7	7	7	9	11	11	11	11	11	12	13	14	14	14	15	15	16	15	16	18	20	23	22	21	20	19	
出版・印刷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	2	4	4	4	4	4	4
その他製造業	22	23	26	30	31	33	36	38	40	45	58	62	67	70	71	74	69	70	72	74	68	70	76	77	78	81	80	77	77	75	75	76	
年間設立企業数(合計)	190	223	250	285	311	343	380	457	545	620	767	887	969	1,011	1,017	1,052	1,076	1,113	1,144	1,184	1,198	1,217	1,270	1,262	1,267	1,265	1,247	1,258	1,187	1,117	1,105	1,108	

〔注〕製造拠点のみで、単独R&D・デザインセンターは含まない。

第3表 在欧州・トルコ日系製造業の国別・業種別内訳（2010年末時点）

	英国	ドイツ	フランス	イタリア	スペイン	オランダ	ベルギー	スウェーデン	アイルランド	ポルトガル	デンマーク	オーストリア	フィンランド	スイス	ルクセンブルク	ノルウェー	ギリシャ	西欧企業合計	チェコ	ポーランド	ハンガリー	ルーマニア	スロバキア	ブルガリア	リトアニア	セルビア	モンテネグロ	スロベニア	中・東欧企業合計	欧州企業合計	トルコ	合計
食品・農水産加工	13	5	22	1		2	2			2	4			1				52		3	1	1				1		6	58	1	59	
繊維 (紡績・織物・化学繊維)	1	3	2	1	1	1												9											9		9	
衣服・繊維製品	3		3	5	1													12	1				1					2	14		14	
木材・木製品 (家具・インテリア製品を除く)								4					3					7											7		7	
家具・インテリア製品			1		1													2											2		2	
紙・パルプ	1	3				1	1						1					7											7		7	
化学品・石油製品	18	18	16	3	8	12	7	1		2	1	3		1	2		1	93	2	2	2		1					7	100	1	101	
プラスチック製品	11	2	2	3	4	7	7					1		1				38	2	1	1	1	2					7	45		45	
医薬品	5	2	6	4	1	2	4	1	3		1		1					30	1			1						2	32		32	
ゴム製品	3	1	3	1	2	1	2		1	1								15		5	2	1						8	23	2	25	
窯業・土石	4	3	2	3	3	1	3	1					1					21	8	8	1							17	38		38	
鉄鋼 (鋳鍛造品を含む)	1	2			2	1												6	1									1	7		7	
非鉄金属	2		2							1								5	1	1								2	7		7	
金属製品 (メッキ加工を含む)	5	3			3	1	1	1		1		1						16	3	6		1						10	26		26	
一般機械 (金型・機械工具を含む)	43	28	17	10	4	11	1	3	4			2	1	2				126	11	11		3				1		26	152		152	
電気機械・電子機器	35	11	13	6	4	1	5	3		1	3		1	1	1			85	6	9	2		4			1		22	107		107	
電気・電子部品	12	15	4	4		1	3	1	3		2	2		1				48	19	8	5	1	3					36	84		84	
輸送用機器 (自動車・二輪車)	3		2	1	4	2		2		2			1					17	1		2							3	20	3	23	
輸送用機器部品 (自動車・二輪車)	44	18	21	14	14	2	4	2		2			1					122	37	19	21	11	4	2	1		1	96	218	9	227	
精密機械	9	11	6	1	1	4	1	1				1						35		1	1							2	37		37	
医療機器	6	5	4	1						2								18		1								1	19		19	
出版・印刷			1		1													2	1	1								2	4		4	
その他製造業	29	16	6	4	3	2	2	1		1	1	2		1				68		4	1		1		1			7	75	1	76	
合計	248	146	133	62	57	52	43	21	13	13	12	12	9	8	3	1	1	834	94	80	39	19	16	3	2	2	1	1	257	1,091	17	1,108

(注) 製造拠点のみで、単独R&D・デザインセンター拠点は含まない。

第4表 在欧州・トルコ進出日系企業が有するR&D・デザインセンター新規進出動向及び2010年末の合計数

	～1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2010年末 合計
英 国	89 (22)	2	6 (2)	8 (4)	8 (3)	8 (2)	8 (5)	3 (2)	3 (1)	3 (3)	5 (1)	2 (1)	5 (1)		1		151 (47)
ドイツ	67 (29)	2 (1)	3 (2)	4 (2)	7 (3)	2 (1)	6 (4)	5 (2)	5 (3)	5	11 (6)	8 (1)	6 (3)	7 (3)	4 (2)	3 (1)	145 (63)
フランス	25 (8)	2 (1)	1	1		3	2 (1)			2 (1)	2 (1)	1	1			1 (1)	41 (13)
スペイン	22 (5)						2		2		1	2					29 (5)
ベルギー	19 (6)		2 (1)			1 (1)	1 (1)			1 (1)					1		25 (10)
オランダ	12 (1)	2				1						1					16 (1)
イタリア	7 (2)					1 (1)	2								2		12 (3)
スウェーデン	5					1	1						1		1		9
ポルトガル	6												1				7
デンマーク	1 (1)						1		1	1	1			1			6 (1)
スイス	1										1 (1)		1		2 (2)		5 (3)
アイルランド	1		1							1		1				1 (1)	5 (1)
ギリシャ	3 (2)											1 (1)					4 (3)
ルクセンブルク	3 (2)															1	4 (2)
フィンランド			1						1								2
オーストリア	1																1
西欧合計	262 (78)	8 (2)	14 (5)	13 (6)	15 (6)	17 (5)	23 (11)	8 (4)	12 (4)	13 (5)	21 (9)	16 (3)	15 (4)	8 (3)	11 (4)	6 (3)	462 (152)
チェコ		1					1 (1)		1				1	2 (1)			6 (2)
ポーランド				2 (1)				1 (1)			1		1				5 (2)
ハンガリー	1 (1)			1													2 (1)
ルーマニア				1										1			2
スロバキア							1										1
リトアニア										1							1
セルビア																	
モンテネグロ																	
ブルガリア																	
中・東欧合計	1 (1)	1		4 (1)			2 (1)	1 (1)	1	1	1		2	3 (1)			17 (5)
欧州合計	263 (79)	9 (2)	14 (5)	17 (7)	15 (6)	17 (5)	25 (12)	9 (5)	13 (4)	14 (5)	22 (9)	16 (3)	17 (4)	11 (4)	11 (4)	6 (3)	479 (157)
トルコ	1																1
合計	264 (79)	9 (2)	14 (5)	17 (7)	15 (6)	17 (5)	25 (12)	9 (5)	13 (4)	14 (5)	22 (9)	16 (3)	17 (4)	11 (4)	11 (4)	6 (3)	480 (157)

[注]①製造拠点に併設して保有しているもの、独立の法人や研究所などのかたちで単独で存在しているものを含む。カッコ内は、うち単独R&D・デザインセンター拠点。

②2010年末に進出している日系企業のR&D拠点(480拠点)の各設立年の年末の企業数の推移を示したもの。

2011 年在欧州・トルコ日系製造業の 経営実態調査概要

I. 在欧州・トルコ日系製造業の概況

〔日系製造業拠点数〕

- ・ 今回の調査で確認できた在欧州・トルコ日系製造業拠点数は、西欧 834 社、中・東欧 257 社・トルコ 17 社の計 1,108 社（2010 年末時点）で、2010 年中の新規進出は 25 社（西欧 13 社、中・東欧・トルコ 12 社）だった。【第 1 表、図表 2】

〔国別拠点数〕

- ・ 英国が最大の 248 社。次いで、ドイツ 146 社、フランス 133 社。この 3 カ国で在欧州・トルコ進出日系製造業拠点総数の 47.6%を占める。【図表 1】
- ・ 中・東欧・トルコではチェコが最も多く 94 社で、欧州・トルコ全体でも 4 番目に拠点数が多い。ポーランドは欧州・トルコ全体では第 5 位の拠点数で 80 社だった。【図表 1】

〔業種別拠点数〕

- ・ 輸送用機器部品（自動車・二輪車）が最多の 227 社（全体の 20.5%）で、一般機械（金型・機械工具を含む）152 社（同 13.7%）、電気機械・電子機器 107 社（同 9.7%）、化学品・石油製品 101 社（同 9.1%）と続く。【第 2 表】

〔研究開発（R&D）・デザインセンター拠点数〕

- ・ 2010 年末時点で、欧州・トルコに R&D・デザインセンター施設を有する日系企業は 480 社で、うち 157 社が R&D・デザインセンター単独で進出している。【第 4 表】

1. 日系製造業数は上位 5 カ国中、2 カ国が中・東欧で変わらず

今回の調査（2010 年末時点）で確認された在欧州・トルコ日系製造業拠点数は、西欧 834 社、中・東欧・トルコ 274 社（257 社+17 社）の計 1,108 社だった。国別の企業数では英国が 248 社で最多である。次いで多いのはドイツ（146 社）、フランス（133 社）だった。これら進出上位 3 カ国で全体の 47.6%、西欧の 63.2%を占める。また、拠点数が 4 番目に多いのはチェコ（94 社）、5 番目がポーランド（80 社）と、進出上位 5 カ国中、2 カ国が中・東欧だった。【図表 1】

日系製造業数の多い業種は、輸送用機器部品（自動車・二輪車）227 社（全体の 20.5%）で、次いで、一般機械（金型・機械工具を含む）が 152 社（同 13.7%）、電気機械・電子機器 107 社（同 9.7%）、化学品・石油製品 101 社（同 9.1%）となっている。この 4 業種で全体の 53.0%を占める。【図表 1】

業種を国・地域別にみると、西欧では、一般機械（金型・機械工具を含む）、輸送用機器部品（自動車・二輪車）、化学品・石油製品が上位を占める。英国では輸送用機器部品（自動車・二輪車）、一般機械（金型・機械工具を含む）、電気機械・電子機器、ドイツでは一般機械（金型・機械工具を含む）、化学品・石油製品、輸送用機器部品（自動車・二輪車）、フランスでは食品・農水産加工、輸送用機器部品（自動車・二輪車）、一般機械（金型・機械工具を含む）、が上位を占める。

中・東欧・トルコでは、輸送用機器部品（自動車・二輪車）への集中度が高く 105 社を占め、同地域全体の 38.3%を占める。次いで、電気・電子部品の 36 社（13.1%）が多い。

【図表 1】

図表 1 国・地域別の割合の高い業種（2010 年末時点）

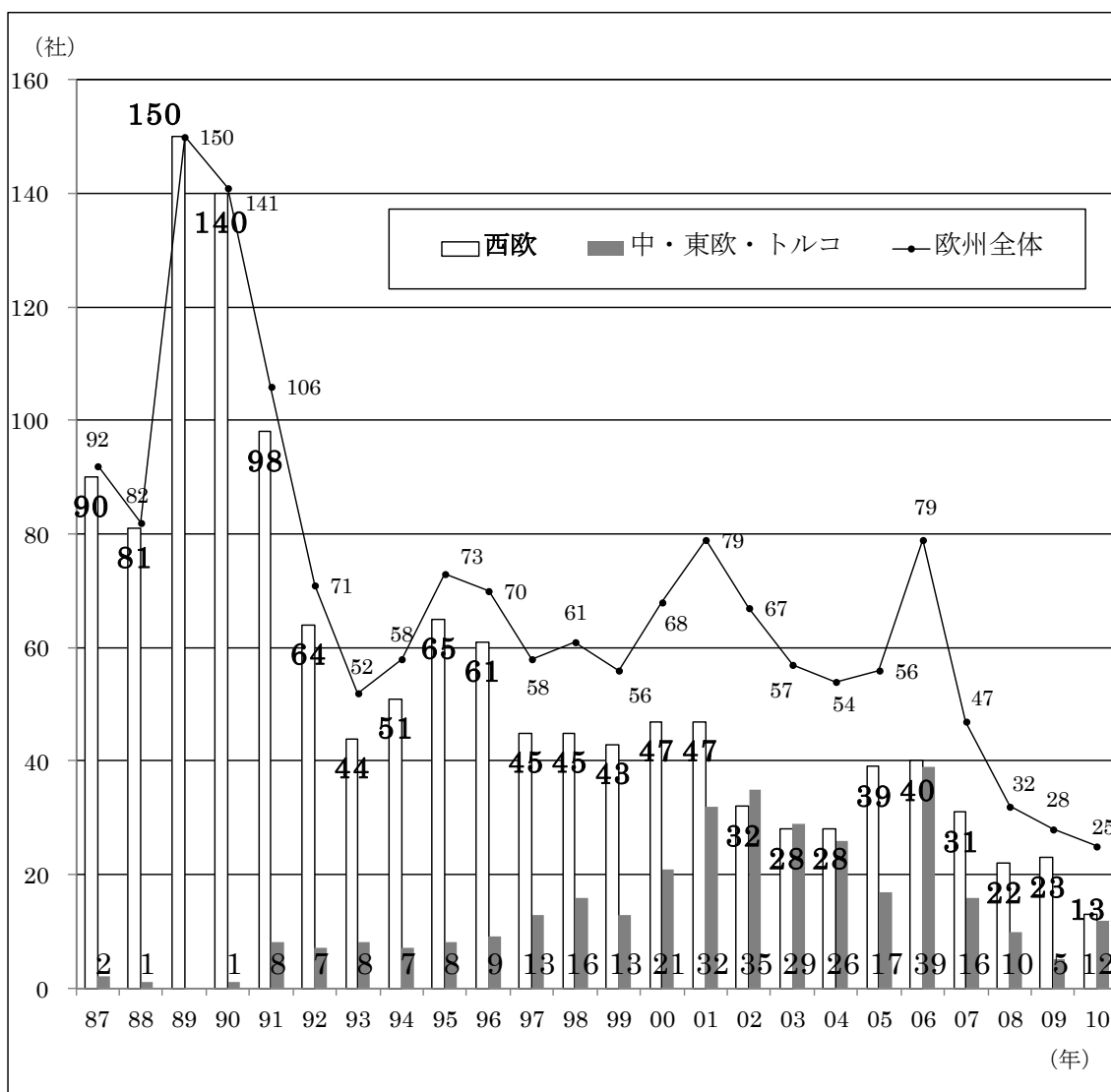
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
欧州・トルコ	輸送用機器部品 (自動車・二輪車)	一般機械	電気機械・電子機器	化学品・石油製品	電気・電子部品
(1,108社)	227社 (20.5%)	152社 (13.7%)	107社 (9.7%)	101社 (9.1%)	84社 (7.6%)
西欧	一般機械	輸送用機器部品 (自動車・二輪車)	化学品・石油製品	電気機械・電子機器	その他製造業
(834社)	126社 (15.1%)	122社 (14.6%)	93社 (11.2%)	85社 (10.2%)	68社 (8.2%)
英国	輸送用機器部品 (自動車・二輪車)	一般機械	電気機械・電子機器	その他製造業	化学品・石油製品
(248社)	44社 (17.7%)	43社 (17.3%)	35社 (14.1%)	29社 (11.7%)	18社 (7.2%)
ドイツ	一般機械	化学品・石油製品	輸送用機器部品 (自動車・二輪車)	その他製造業	電気・電子部品
(146社)	28社 (19.2%)	18社 (12.3%)	18社 (12.3%)	16社 (11.0%)	15社 (10.3%)
フランス	食品・農水産加工	輸送用機器部品 (自動車・二輪車)	一般機械	化学品・石油製品	電気機械・電子機器
(133社)	22社 (16.5%)	21社 (15.8%)	17社 (12.8%)	16社 (12.1%)	13社 (9.8%)
中・東欧 ・トルコ	輸送用機器部品 (自動車・二輪車)	電気・電子部品	一般機械	電気機械・電子機器	窯業・土石
(274社)	105社 (38.3%)	36社 (13.1%)	26社 (9.5%)	22社 (8.0%)	17社 (6.2%)
チェコ	輸送用機器部品 (自動車・二輪車)	電気・電子部品	一般機械	窯業・土石	電気機械・電子機器
(94社)	37社 (39.4%)	19社 (20.2%)	11社 (11.7%)	8社 (8.5%)	6社 (6.4%)
ポーランド	輸送用機器部品 (自動車・二輪車)	一般機械	電気機械・電子機器	窯業・土石	電気・電子部品
(80社)	18社 (23.8%)	11社 (13.8%)	9社 (11.3%)	8社 (10.0%)	8社 (10.0%)

注：一般機械は金型・機械工具含む。金属製品はメッキ加工含む

2. 新規進出は中・東欧・トルコの低迷が影響し減少

2010年中の新規進出案件は25社（西欧13社、中・東欧・トルコ12社）で、2009年の年間新規進出案件数の28社（西欧23社、中・東欧・トルコ5社）に引き続き低調だった。中・東欧・トルコへの案件は、2008年9月の金融危機後の景気後退により、2009年には2000年以降の投資件数としては最低の5件まで落ち込んだが、2010年は若干回復し、12社にのぼった。【図表2】

図表2 日系製造業新規投資案件数の推移

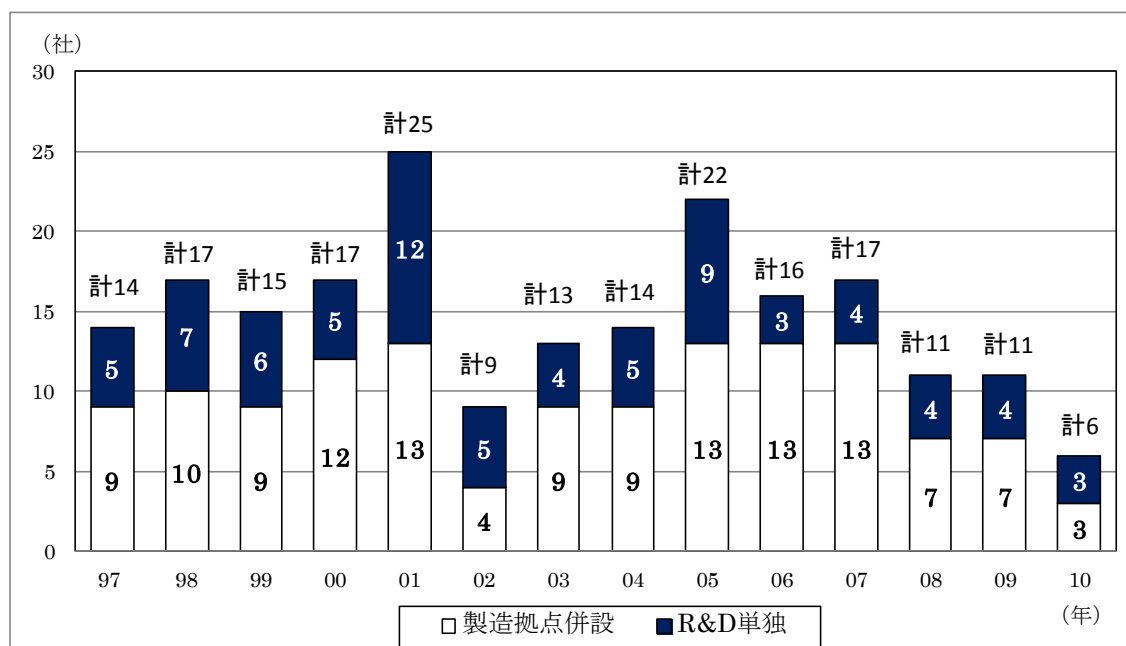


3. R&D・デザインセンター拠点は西欧集中傾向変わらず

2010年末に欧州・トルコにR&D・デザインセンター拠点を有する日系企業は480社で、うち157社がR&D・デザインセンター単独で進出している。全480拠点中96.3%にあたる462拠点は西欧に進出し、残りの3.7%にあたる18拠点は中・東欧・トルコとなっており、西欧集中の傾向に変化はない。国別に見てみると、151拠点が立地する英国が最も多く、ドイツ（145拠点）、フランス（41拠点）が続く。【図表3】

2010年に新設されたR&D・デザインセンター拠点は6拠点で、国別では、新たに3拠点が設置されたドイツが最も多かった。中・東欧・トルコには、新設されたR&D・デザインセンター拠点はなかった。2008年の金融危機以降、新規設立数は伸び悩んでいる。【第4表、図表3】

図表3 各年別R&D・デザインセンター設立数



〔注〕2010年末時点で存在する拠点のみ対象

Ⅱ. 在欧州・トルコ日系製造業の経営の現状および見通し

1. 景況感

在欧州・トルコ日系製造業全体で、2011年の景況感は2010年に比べて「改善」と回答する企業は45.3%で、「悪化」(17.4%)を上回った。地域別に見ると、西欧では47.1%が「改善」としているものの、中・東欧・トルコでは39.8%とやや少ない割合であった。

また、2012年の見通しについては、在欧州・トルコ全体で「改善」と「変わらない」を合わせて9割を超えた(「改善」39.4%、「変わらない」53.1%)。【図表4】

2. 営業損益

在欧州・トルコ日系製造業の2010年の営業損益は「黒字」が68.4%、「赤字」が23.2%だった。2011年の見通しは、「黒字」が67.6%とほぼ横ばいで、「赤字」は12.1%と減少している。【図表5】

3. 対前年比営業損益

2010年の営業損益が前年(2009年)に比べて「改善」と回答した企業は64.9%であり、「悪化」が17.0%。【図表8】

「改善」した理由は「販売増加」を挙げた企業が88.3%と最も多く、次いで「生産性向上」が53.3%であった。【図表10】

2011年の見通しでは「改善」が49.6%と約半数に減少した一方、「悪化」は21.0%と微増した。【図表8】2011年に「改善」する理由を見ると「進出先国内市場の販売増加」が58.7%と最も多く、「進出先国外市場の販売増加」が53.8%と続いた。【巻末表Ⅱ-4-3】

2012年の見通しは「改善」47.1%、「変わらない」42.9%、「悪化」10.0%となった。【図表14】

1. 景況感

在欧州・トルコ日系製造業全体で、2011年の景況感が2010年に比べて「改善」と回答する企業は45.3%で、「悪化」（17.4%）を上回った。

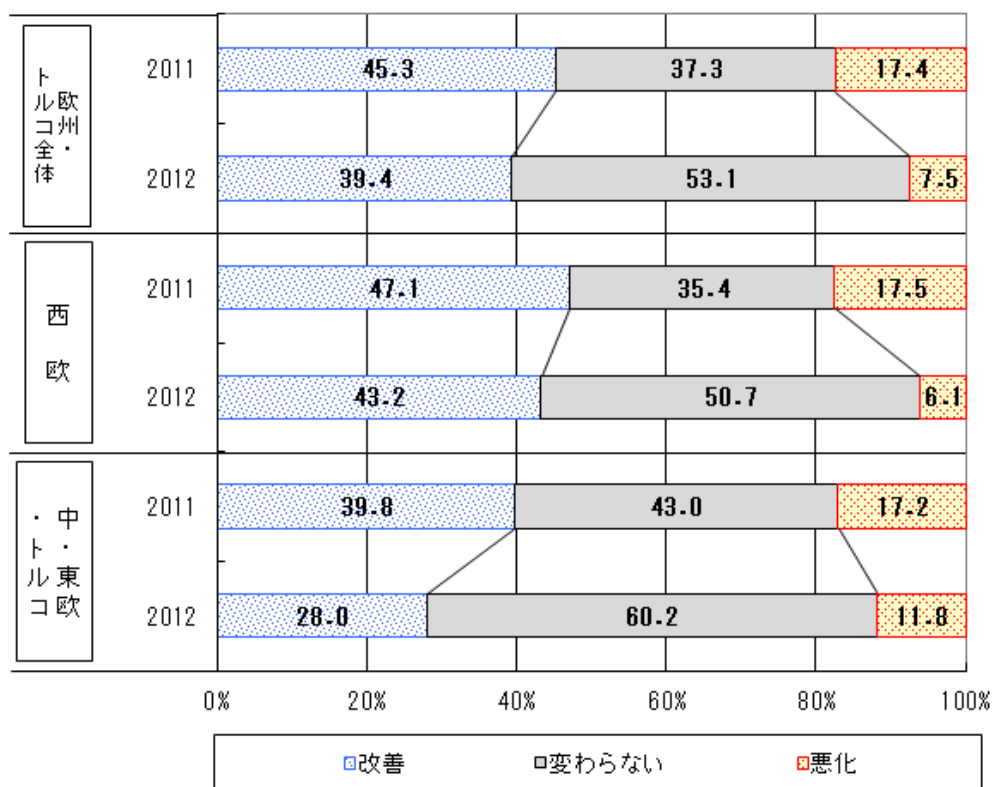
また、2012年については、在欧州・トルコ全体で「改善」の見通しを示す企業は39.4%、「変わらない」は53.1%であり、「悪化」は7.5%であった。

地域別で見ると、「改善」とする企業は、西欧（2011年47.1%、2012年43.2%）に対して、中・東欧・トルコ（2011年39.8%、2012年28.0%）の方が見通しは厳しい。【図表4】

取扱製品別（最終財/中間財）では、2011年を「改善」と見るのは、最終財取扱企業（41.0%）、中間財取扱企業（50.0%）と、最終財取扱企業の方が厳しい見通しをしている。【巻末表Ⅱ-1-3】

一方、2012年を「改善」と見るのは、最終財取扱企業（40.9%）、中間財取扱企業（37.6%）と、逆に中間財取扱企業の方がやや厳しい見通しをしている。【巻末表Ⅱ-1-4】

図表4 【在欧州・トルコ】日系製造業の景況感



(回答数：[西欧]2011年：280社、2012年：278社、[中・東欧・トルコ]2011年93社、2012年：93社)

2. 2010年の営業損益の推移

～「黒字」が68.4%、「赤字」が23.2%～

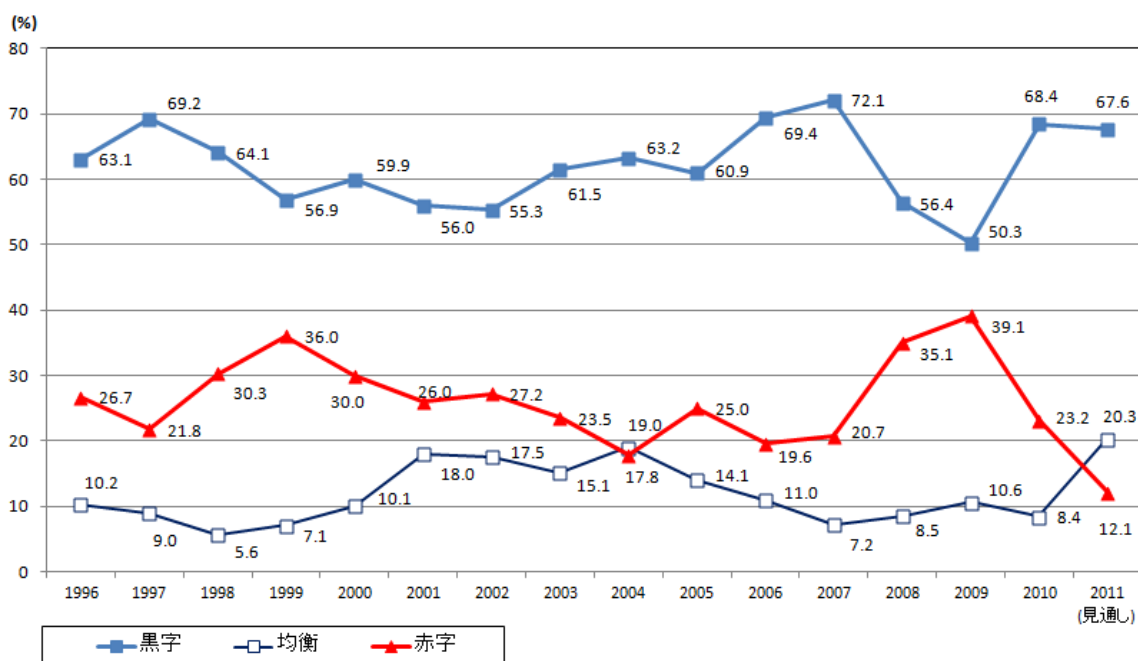
[欧州・トルコ全体]

在欧州・トルコ日系製造業の2010年の営業損益は、「黒字」が68.4%（前年比18.1ポイント増）、「均衡」は8.4%（2.2ポイント減）、「赤字」は23.2%（15.9ポイント減）で、「黒字」の比率は大きく増加し、「赤字」は大きく減少という回復を示した。

2011年の見通しでは「黒字」は67.6%（前年比0.8ポイント減）、「均衡」は20.3%（11.9ポイント増）、「赤字」が12.1%（11.1ポイント減）となり、2010年に比べるとやや厳しい見通しとなった。【図表5】

業種別に2010年の営業損益を見ると、「黒字」の多い上位3業種は「医薬品」（2010年92.3%、2011年76.9%）、「食品・農水産加工」（2010年86.7%、2011年86.7%）、化学品・石油製品（2010年81.1%、2011年77.8%）となった。企業規模では大企業（2010年70.3%、2011年68.6%）と中小企業（2010年35.0%、2011年50.0%）で、2010年「黒字」となった大企業の比率は、中小企業の約2倍となっている。【巻末表Ⅱ-2-1、Ⅱ-2-2】

図表5 【欧州・トルコ】日系製造業の営業損益の推移



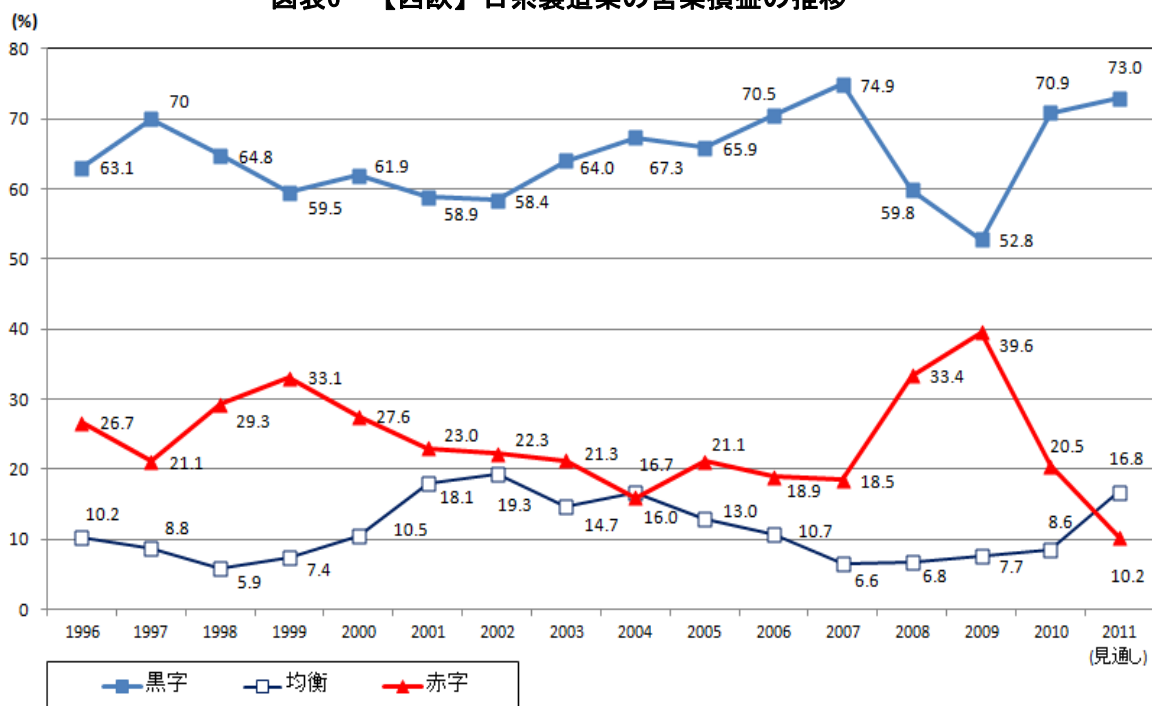
(回答数: 2010年370社、2011年364社)

〔西欧地域〕

在西欧日系製造業を見ると、2010年営業損益が「黒字」は70.9%（前年比18.1ポイント増）、「均衡」は8.6%（0.9ポイント増）、「赤字」は20.5%（19.1ポイント減）となった。2011年の見通しは、「黒字」が73.0%（前年比2.1ポイント増）、「均衡」は16.8%（8.2ポイント増）、「赤字」は10.2%（10.3ポイント減）となった。

2010年、2011年とも赤字は大きく減り、在西欧日系製造業については黒字を維持する企業が多そうだ。【図表6】

図表6 【西欧】日系製造業の営業損益の推移

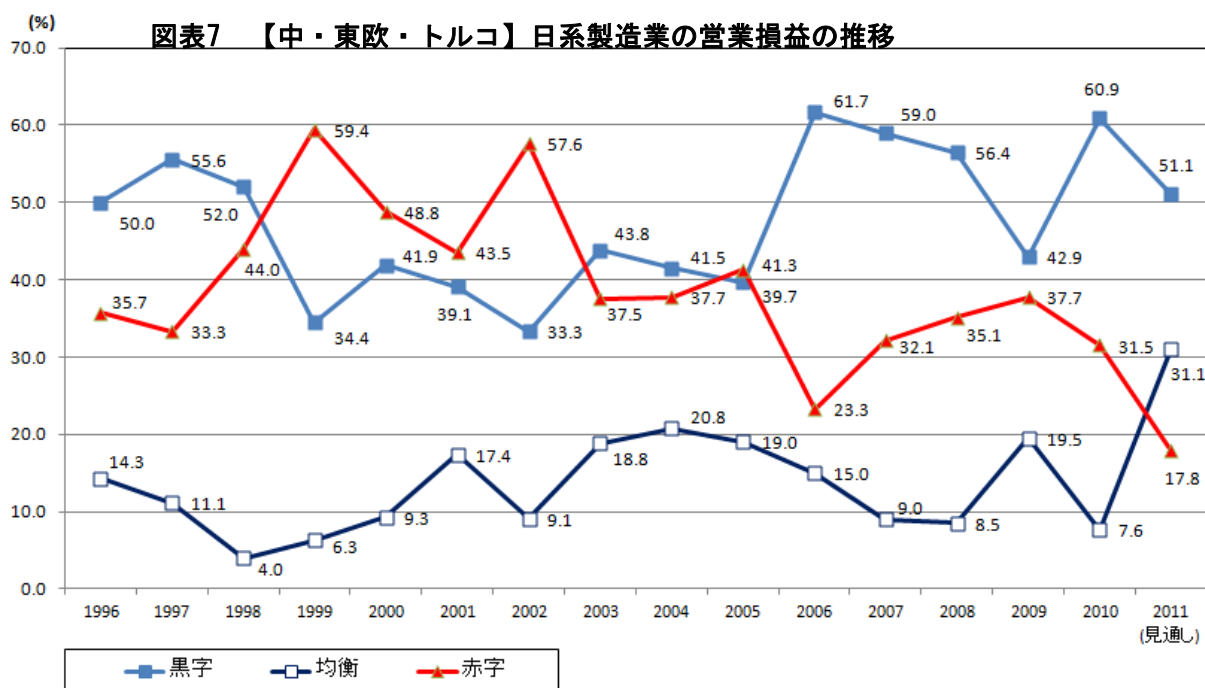


(回答数: 2010年278社、2011年274社)

〔中・東欧・トルコ地域〕

在中・東欧・トルコ日系製造業の2010年営業損益は、「黒字」は60.9%（前年比18.0ポイント増）、「均衡」は7.6%（11.9ポイント減）、「赤字」は31.5%（6.2ポイント減）であった。2011年の営業損益の見通しは、「黒字」が51.1%（9.8ポイント減）、「均衡」が31.1%（23.5ポイント増）、「赤字」が17.8%（13.7ポイント減）となった。

2011年については、在中・東欧・トルコ日系製造業の方が西欧日系製造業よりもより厳しい見通しを持っている。【図表7】



(回答数: 2010年92社、2011年90社)

(注) 2008年以前は「中・東欧」(トルコ含まず)のデータ

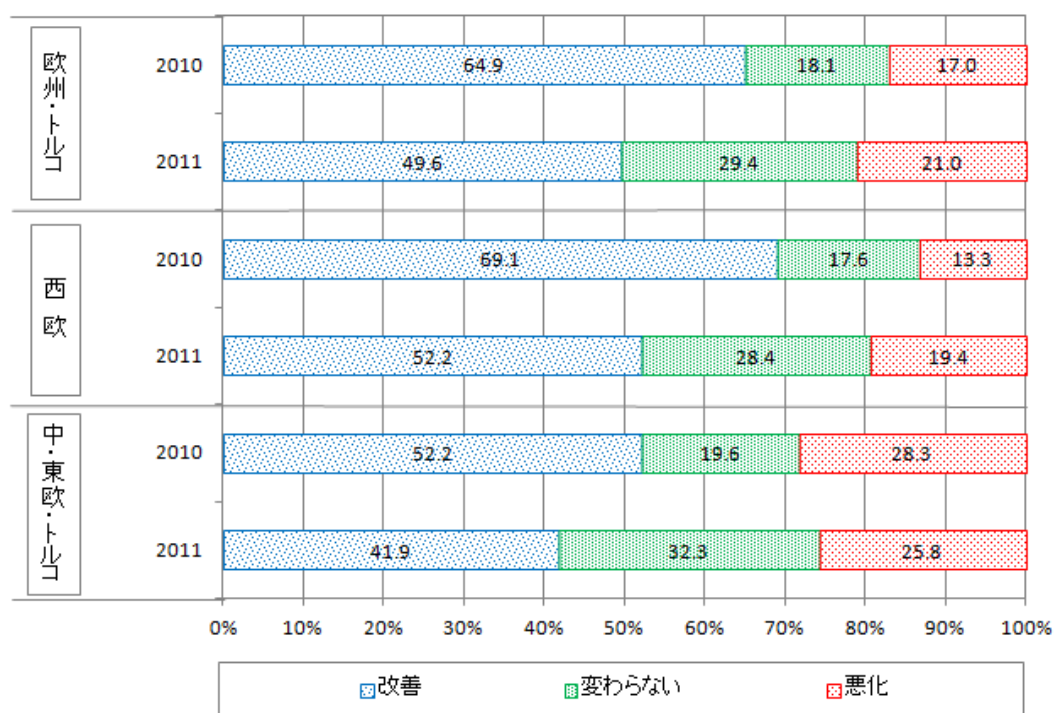
3. 2010年の営業損益の増減要因分析

～「販売増加」により「改善」～

2010年の営業損益が前年に比べ、「改善」と回答した企業の割合は欧州・トルコ全体で64.9%（前年比28.2ポイント増）、「変わらない」が18.1%（5.6ポイント増）、「悪化」が17.0%（33.8ポイント減）と、「改善」した企業が大幅に増えた。

また、「改善」を地域別に見ると、中・東欧・トルコ（52.2%）よりも西欧（69.1%）の方が多かった。【図表8】

図表8 【欧州・トルコ】日系製造業の営業損益の対前年比



（回答数：[欧州・トルコ]2010年：370社、2011年：371社、[西欧]2010年：278社、2011年：278社
[中・東欧・トルコ]2010年：92社、2011年：93社）

2010年の営業損益を業種別で見ると（回答数5社以上）、窯業・土石、ゴム製品、医薬品で「改善」が80%を超えた。一方、輸送用機器（自動車・二輪車）、非鉄金属、食品・農水産加工は「悪化」が30%を超えたが、非鉄金属では「改善」が「悪化」を上回っており、「悪化」は限定的だった。【図表9】

企業規模別では大企業では「改善」65.4%、「悪化」16.6%、中小企業は「改善」55.0%、「悪化」25.0%と、大企業の方が回復の傾向が顕著。【巻末表Ⅱ-3-2】

図表9 【欧州・トルコ】営業損益が「改善」、「悪化」回答の多かった業種（2010年）

「改善」回答の多かった業種 (%)					「悪化」回答の多かった業種 (%)				
	業種	回答数	改善	悪化		業種	回答数	改善	悪化
1	窯業・土石	5	100.0	0.0	1	輸送用機器 (自動車・二輪車)	11	45.5	45.5
2	ゴム製品	9	88.9	0.0	2	非鉄金属	5	60.0	40.0
3	医薬品	13	84.6	7.7	3	食品・農水産加工	15	66.7	33.3
4	繊維	5	80.0	0.0	4	輸送用機器部品	88	55.7	22.7
5	化学品・石油製品	37	78.4	8.1	5	電気機械・電子機器	24	54.2	20.8

2010年の営業損益が「改善」した理由（複数回答）を見ると、「販売増加」が88.3%と最も多く、「生産性向上」（53.3%）「人件費の削減」（29.6%）、と続く。【図表10】

企業規模別に見ると、「生産性向上」で大企業（54.6%）と中小企業（27.3%）で2倍の差がつき、「人件費の削減」で大企業（30.1%）、中小企業（18.2%）、「管理費・光熱費の削減」でも大企業（27.5%）、中小企業（18.2%）と、大企業がより積極的に内部コスト削減に取り組んでいることが分かる。一方、「販売増加」で中小企業（90.9%）、大企業（88.2%）、「進出先国内調達コストの低減」で中小企業（18.2%）、大企業（7.4%）となった。【巻末表Ⅱ-3-3】

「悪化」した理由（複数回答）としては、「為替変動」が48.4%と最も多く、特に中小企業（60.0%）は大企業（47.4%）に比べて影響が大きいことが分かる。「ユーロ財政危機に端を発する欧州の景気低迷」も中小企業（60.0%）が大企業（28.1%）の倍以上の割合となった。【図表10、巻末表Ⅱ-3-4】

図表10 【欧州・トルコ】営業損益の「改善」、「悪化」の理由（2010年）＜複数回答＞

改善理由 (%)		悪化理由 (%)		
1	販売増加	88.3	1 為替変動	48.4
2	生産性向上	53.3	2 進出先国外市場の販売減	38.7
3	人件費の削減	29.6	3 ユーロ財政危機に端を発する欧州の景気低迷	30.6

（回答数：[改善理由]240社 [悪化理由]62社）

〔西欧地域〕

在西欧日系製造業で 2010 年の営業損益が前年に比べ「改善」したと回答した企業は 69.1%と、前年より 35.2 ポイント増加した。

また、「悪化」したとする企業は 13.3%と、前年より 39.7 ポイント減少しており、回答企業の業績は大きく改善している。【図表 8】

国別に「改善」が多かった国を見ると、ベルギー、ポルトガルで 8 割を超え、ドイツ、イタリアと続く。「悪化」はアイルランド、フランスなどが多いが、その割合は 3 分の 1 以下にとどまっている。【図表 11】

図表11 【西欧】 営業損益の「改善」、「悪化」の回答が多かった国・地域（2010年）

「改善」回答が多かった国 (%)					「悪化」回答が多かった国 (%)				
	国名	回答数	改善	悪化		国名	回答数	改善	悪化
1	ベルギー	18	88.9	-	1	アイルランド	6	66.7	33.3
2	ポルトガル	8	87.5	-	2	フランス	36	61.1	22.2
3	ドイツ	52	76.9	7.7	3	イタリア	15	73.3	20.0
4	イタリア	15	73.3	20.0	4	英国	82	63.4	18.3
5	アイルランド	6	66.7	33.3	5	フィンランド	6	50.0	16.7

西欧地域において、2010 年の営業損益が「改善」した理由（複数回答）で、回答が最も多かったのは、「販売増加」で 90.1%に上っている。次いで「生産性の向上」（51.0%）、「人件費の削減」（31.8%）が挙げられた。

「悪化」した理由（回答数 36 社、複数回答）については、「為替変動」を挙げる企業が 50.0%と最も多く、「進出先国外市場の販売減」（44.4%）、「ユーロ財政危機に端を発する欧州の景気低迷」（30.6%）、「進出先国内市場の販売減」（27.8%）、「販売価格の下落」（25.0%）と続いている。【図表 12】

図表12 【西欧】 2010年の営業損益が改善（悪化）した理由上位項目〈複数回答〉

【西欧】(改善)				【西欧】(悪化)			
	理由	回答数	割合 (%)		理由	回答数	割合 (%)
1	販売増加	173	90.1	1	為替変動	18	50.0
2	生産性向上	98	51.0	2	進出先国外市場の販売減	16	44.4
3	人件費の削減	61	31.8	3	ユーロ財政危機に端を発する欧州の景気低迷	11	30.6
4	管理費・光熱費の削減	53	27.6	4	進出先国内市場の販売減	10	27.8
5	販売価格の上昇	45	23.4	5	販売価格の下落	9	25.0

(回答数 192 社)

(回答数 36 社)

〔中・東欧・トルコ地域〕

在中・東欧・トルコ日系製造業で2010年の営業損益が前年に比べ「改善」したと回答した企業は52.2%と、前年より6.7ポイントの増加で、西欧（69.1%、前年比35.2ポイント増）ほどの劇的な回復ではないが、着実に回復した。「悪化」したとする企業は28.3%と前年より15.9ポイント減少した。【図表8】

国別で見ると、ポーランド（改善73.9%、悪化13.0%）が「改善」の割合が高く、チェコ（改善31.3%、悪化43.8%）、トルコ（改善40.0%、悪化46.7%）は、「改善」を「悪化」が上回った。【巻末表Ⅱ-3-1】

「改善」した理由（複数回答）で最も多かったのは、「販売増加」で81.3%、次いで「生産性向上」（62.5%）である。

「悪化」した理由（複数回答）については、西欧と同様「為替変動」を挙げる企業が46.2%と最も多く、次いで「販売価格の下落」（34.6%）となっている。【図表13】

図表13 【中・東欧・トルコ】 2010年の営業損益が改善（悪化）した理由上位項目〈複数回答〉

【中・東欧・トルコ】(改善)

	理由	回答数	割合(%)
1	販売増加	39	81.3
2	生産性向上	30	62.5
3	管理費・光熱費の削減	12	25.0
4	人件費の削減	10	20.8
5	販売価格の上昇	8	16.7
5	進出先国外調達コストの低減	8	16.7

(回答数 48 社)

【中・東欧・トルコ】(悪化)

	理由	回答数	割合(%)
1	為替変動	12	46.2
2	販売価格の下落	9	34.6
3	ユーロ財政危機に端を発す欧州の景気低迷	8	30.8
3	進出先国外市場の販売減	8	30.8
5	進出先国外調達コストの上昇	7	26.9

(回答数 26 社)

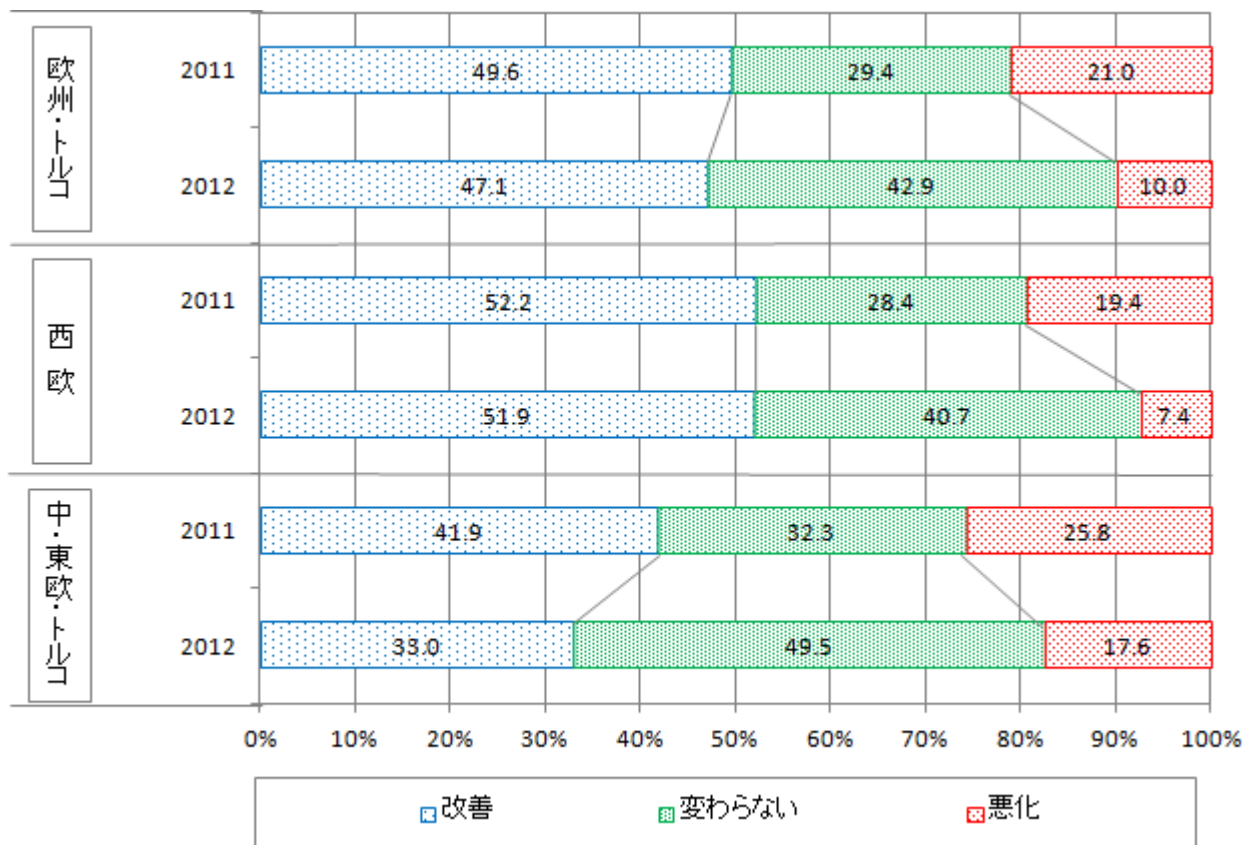
4. 2011 年および 2012 年の営業損益の増減要因分析

～2011 年は「改善」予想が半数、2012 年は「変わらない」予想が増加～

2010 年と比較した場合の 2011 年の営業損益見通しを聞いたところ、欧州・トルコ全体で「改善」と回答した企業は約半数の 49.6%で、「変わらない」は 29.4%、「悪化」は 21.0%であった。さらに 2012 年の見通しは「改善」47.1%、「変わらない」42.9%、「悪化」10.0%となり、「変わらない」と「悪化」を合計すると 52.9%と過半数を超えるが、見方は分かれる。

地域別に見ると、西欧では「改善」が 2011 年 52.2%、2012 年 51.9%とほぼ同じであるが、中・東欧・トルコは「改善」が 2011 年 41.9%から、2012 年 33.0%と減少しており、西欧よりも慎重な見通しが多い。【図表 14】

図表14【欧州・トルコ】日系製造業の営業損益見通し（対前年比）



(回答数：[欧州・トルコ]2010年：371社、2011年：361社 [西欧]2010年：278社、2011年：270社
[中・東欧・トルコ]2010年：93社、2011年：91社)

2011年の営業損益見通しが「改善」する主な理由として1位に挙げられたのは、西欧では「進出先国内市場の販売増加」(62.1%)で、中・東欧・トルコでは「生産性向上」(53.8%)であった。中・東欧・トルコでは依然として生産性に改善の余地がありそうだ。

両地域とも改善する主な理由の上位3項目は「進出先国内市場の販売増加」、「進出先国外市場の販売増加」、「生産性向上」である。

「悪化」する主な理由としては、西欧では「為替変動」(37.0%)が最も多く挙げられており、歴史的な円高ユーロ安が暗い影を落としている。次いで「進出先国外調達コストの上昇」(33.3%)、「販売価格の下落」(31.5%)と続く。

中・東欧・トルコでは「販売価格の下落」(58.3%)が最も多く、次いで「為替変動」(41.7%)、「ユーロ財政危機に端を発する景気低迷」(37.5%)となっており、景気低迷による販売価格の下落が収益を圧迫しそうだ。【図表15】

図表15 2011年の営業損益見通しが改善(悪化)する理由上位項目<複数回答>

<2011年の営業損益が「改善」する理由> <2011年の営業損益が「悪化」する理由>

【西欧】(改善理由)

	理由	回答数	割合(%)
1	進出先国内市場の販売増加	90	62.1
2	進出先国外市場の販売増加	82	56.6
3	生産性向上	68	46.9
4	販売価格の上昇	51	35.2
5	新規顧客の開拓	45	31.0

(回答数 145 社)

【西欧】(悪化理由)

	理由	回答数	割合(%)
1	為替変動	20	37.0
2	進出先国外調達コストの上昇	18	33.3
3	販売価格の下落	17	31.5
4	進出先国外市場の販売減	15	27.8
5	進出先国内市場の販売減	14	25.9
5	東日本大震災の影響	14	25.9

(回答数 54 社)

【中・東欧・トルコ】(改善理由)

	理由	回答数	割合(%)
1	生産性向上	21	53.8
2	進出先国内市場の販売増加	18	46.2
3	進出先国外市場の販売増加	17	43.6
4	新規顧客の開拓	9	23.1
5	販売価格の上昇	8	20.5
5	進出先国外調達コストの低減	8	20.5

(回答数 39 社)

【中・東欧・トルコ】(悪化理由)

	理由	回答数	割合(%)
1	販売価格の下落	14	58.3
2	為替変動	10	41.7
3	ユーロ財政危機に端を発する欧州の景気低迷	9	37.5
4	進出先国外市場の販売減	7	29.2
5	人件費の上昇	6	25.0

(回答数 24 社)

Ⅲ. 調達・販売・生産

1. 原材料・部品の調達先

- ・ 在欧州・トルコ日系製造業全体では、西欧からの平均調達比率が 45.1%、次いで日本からが 27.7%となっている。【図表 16】
- ・ 在西欧日系製造業では、西欧からの平均調達比率が 52.4%、日本からは 26.7%、中国からが 4.9%であった。また、在中東欧・トルコ日系製造業では、日本からの平均調達比率が最も高く 30.6%、次いで西欧からは 23.6%、中・東欧からが 16.4%となっている。【図表 16】
- ・ 将来有望な調達先として、中国（87社）、ドイツ（61社）、チェコ（49社）、ポーランド（45社）、タイ（43社）などが挙げられた。【巻末表Ⅲ-1-2】

※平均調達比率：各国・地域の回答数値を合計し、その数を回答企業数で単純に割った数。

(1) 現在の調達先

[欧州・トルコ全体]

在欧州・トルコ日系製造業の、現在の主な調達先とその平均調達比率は、西欧が 45.1%と最大だ。次いで日本からが 27.7%、中・東欧 6.0%、中国 5.3%、ASEAN 4.3%、米国 2.0%、トルコ 1.5%であった。【図表 16】

図表 16 【欧州・トルコ】日系製造業の調達先と平均調達比率

(単位：%)

国・地域 (回答社数)	調達先						
	西欧	中・東欧	トルコ	日本	中国	ASEAN	米国
欧州・トルコ全体(343社)	45.1	6.0	1.5	27.7	5.3	4.3	2.0
西欧(256社)	52.4	2.4	0.5	26.7	4.9	3.5	2.0
英国(76社)	47.8	3.4	0.5	28.3	8.6	4.6	2.3
ドイツ(45社)	51.7	0.9	0.9	31.0	5.3	0.7	1.6
フランス(32社)	47.5	2.1	0.4	30.5	3.4	3.0	2.3
オランダ(20社)	64.7	0.5	1.5	17.8	0.3	6.5	2.2
スペイン(16社)	60.1	0.6	0.0	17.1	5.9	5.8	0.8
中・東欧・トルコ(87社)	23.6	16.4	4.2	30.6	6.5	6.8	2.1
ハンガリー(25社)	25.0	18.6	0.2	36.3	4.2	7.0	2.0
ポーランド(20社)	19.6	18.2	0.5	31.6	5.7	9.3	0.6
チェコ(15社)	24.8	25.5	0.0	25.5	5.1	7.2	0.7

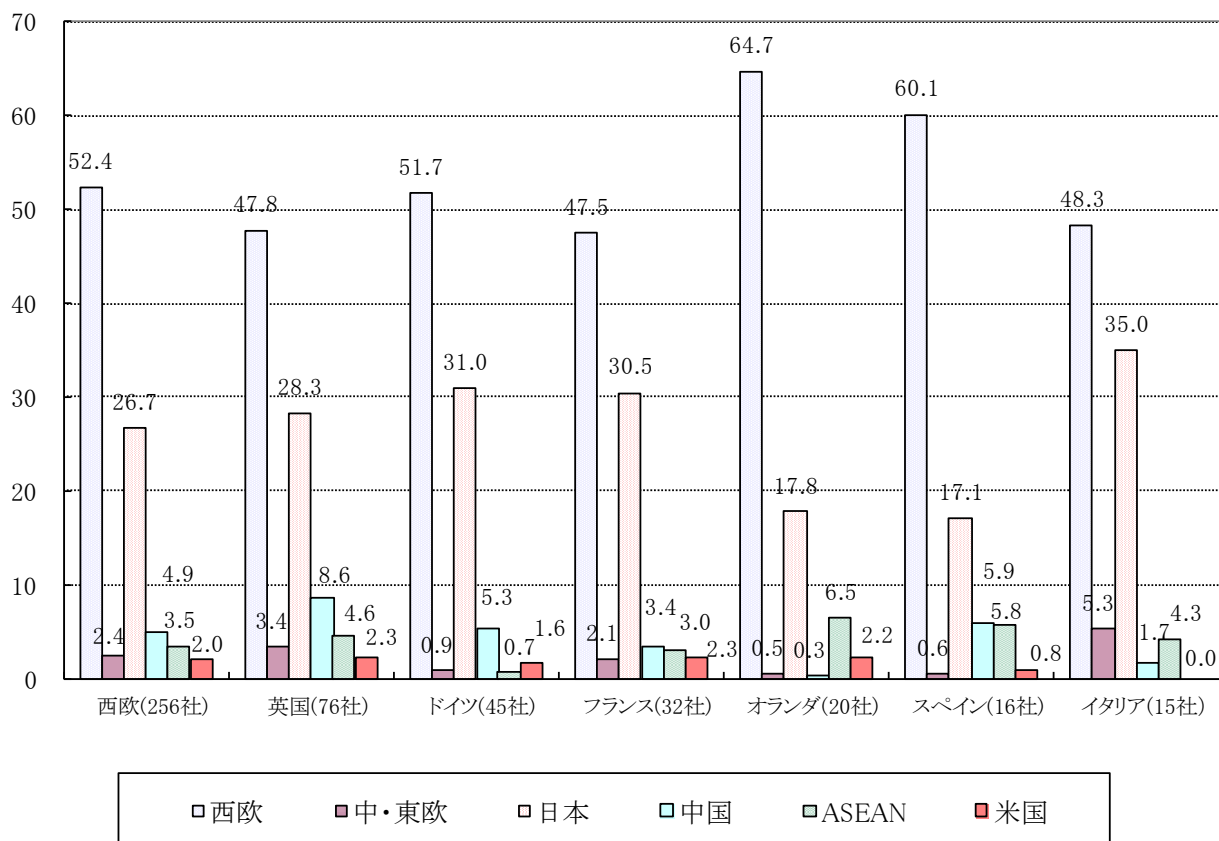
〔西欧地域〕

在西欧日系製造業の調達先と平均調達比率を見ると、同じ西欧からの平均調達比率が52.4%と5割を超えており、2位が日本(26.7%)であった。

これらを西欧の主要国別に見ると、西欧から最も高い割合で調達している国はオランダ64.7%、スペイン60.1%となっている。また、これらオランダ、スペインは日本からの平均調達比率が約17%とやや低い。日本からの平均調達比率はイタリアで35.0%、ドイツ、英国、フランスでも比較的高く、3割前後となっている。【図表17】

図表17 【西欧(主要国)】日系製造業の調達先と平均調達比率

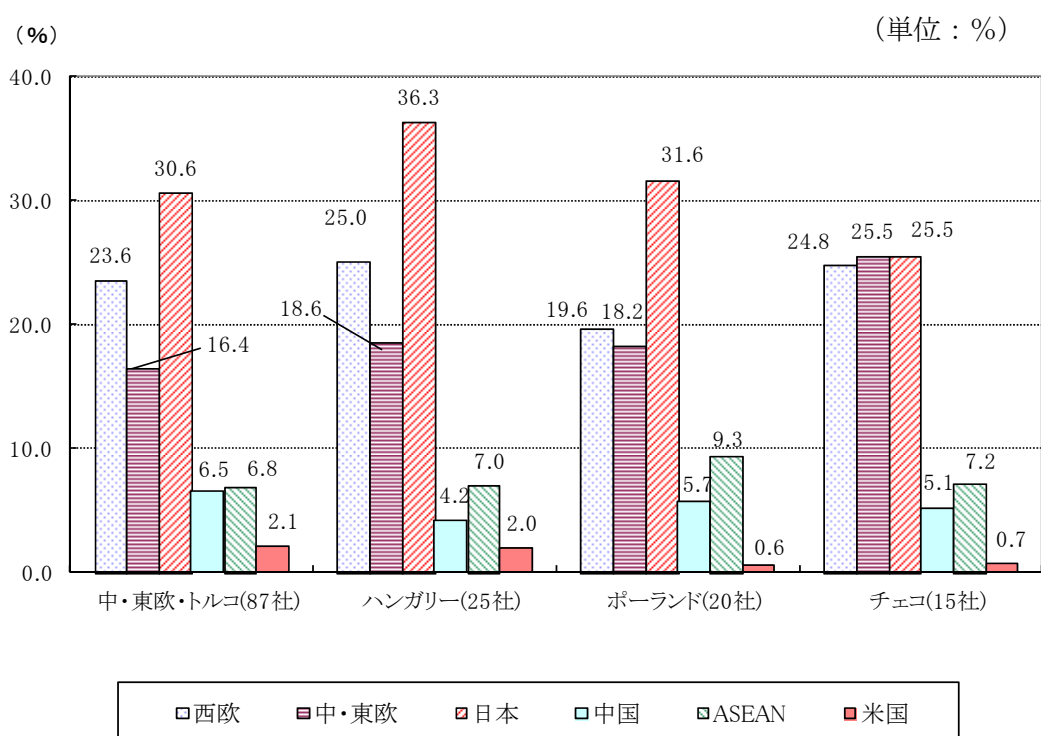
(単位：%)



〔中・東欧・トルコ地域〕

在中・東欧・トルコ日系製造業の調達先と平均調達比率を見ると、最も比率が高いのは日本からの調達であり、地域全体で30.6%であった。次いで西欧からが23.6%、中・東欧からが16.4%となっている。西欧と中・東欧を合わせた現地調達比率は40.0%である。国別では西欧と中・東欧からの現地調達比率が高い国はチェコで50.3%となった。【図表18】

図表18 【中・東欧・トルコ（主要国）】日系製造業の調達先と平均調達比率



(2) 将来有望な調達先

在欧州・トルコ日系製造業の将来有望な調達先は、2010年調査結果と同様に中国の87社が1位だった。次いでドイツ(61社)、チェコ(49社)、ポーランド(45社)、タイ(43社)、と続いている。【図表19】

企業規模別に見ると、大企業は中国(31.0%)、ASEAN(22.5%)、中東(16.6%)など生産拠点から離れた国・地域の回答比率が中小企業よりも高い。

一方、中小企業は西欧(50.0%)、中・東欧(35.7%)の回答比率が大企業よりもやや高い。概して大企業が遠隔地を含めたグローバル調達を目指すのに対し、中小企業は近場で調達しようと考えていることが分かる。【巻末表Ⅲ-1-3】

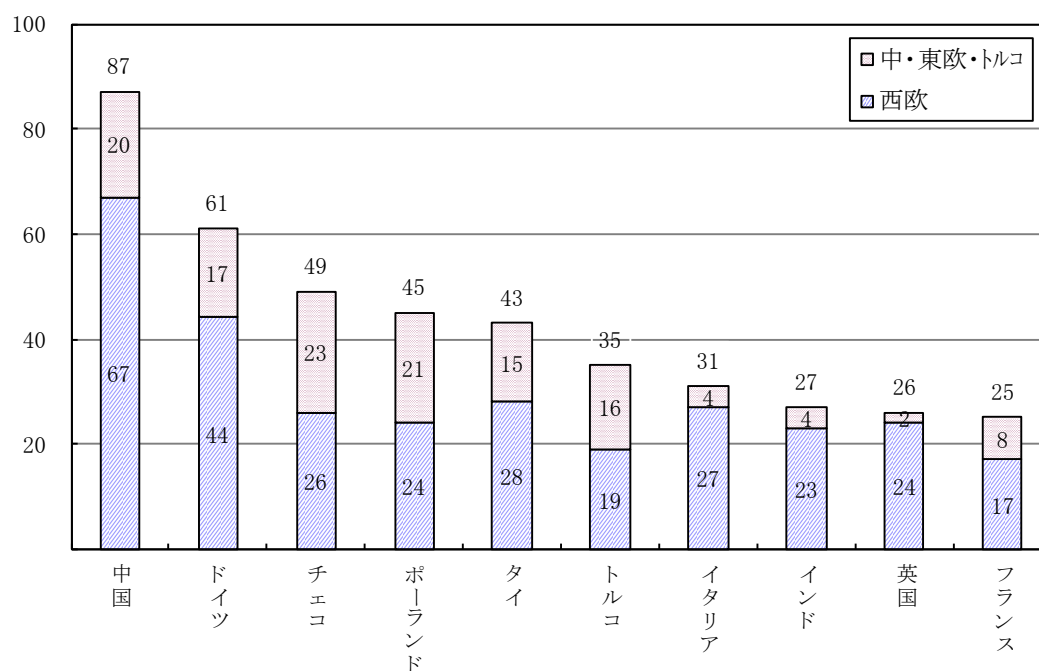
これらの国・地域を将来有望な調達先としている理由を見ると、西欧について「調達先企業の拠点があるため」(50.0%)、中・東欧について「製造コストが安価なため」(54.8%)という回答が多かった。

また、ロシア・CISについては「製造コストが安価なため」(46.2%)に次いで、「調達先の分散・多角化のため」(38.5%)という理由が他地域に比べても多く、ASEANなどの遠い地域よりも地理的に近い同地域をリスク分散先としてとらえていることが分かる。

【巻末表Ⅲ-1-4】

図表19 日系製造業の将来有望な調達先<複数回答>

(単位：社)



(回答数：〔西欧〕209社 〔中・東欧・トルコ〕76社)

2. 販売先

- ・ 在・欧州・トルコ日系製造業全体では、西欧に販売している平均販売比率は 67.4%、中・東欧への平均販売比率は 12.8%だった。合わせて 80.2%が欧州への販売となっている。【図表 20】
 - ・ 在西欧日系製造業では、西欧への平均販売比率が 73.5%、中・東欧は 5.5%となった。在中・東欧・トルコ日系製造業では、西欧が 49.7%、中・東欧が 33.9%となった。【図表 20】
 - ・ 将来有望な販売先は、ロシア（87社）、ドイツ（50社）、トルコ（47社）などが上位に拳がっている。【巻末表Ⅲ-2-2】
- ※平均販売比率：各国・地域の回答数値を合計し、その数を回答企業数で単純に割った数。

（1）現在の販売先

〔欧州・トルコ全体〕

在欧州・トルコ日系製造業の、現在の主な販売先と平均販売比率を調査したところ、西欧が 67.4%、中・東欧が 12.8%、日本 4.4%、米国 3.2%、トルコ 3.0%、ロシア・CIS 1.4%、中国 1.1%となり、その他の国・地域は 1%未満である。【図表 20】

図表 20 日系製造業の販売先と平均販売比率

（単位：％）

国・地域	販売先						
	西欧	中・東欧	日本	トルコ	米国	ロシア・CIS	中国
欧州全体(350社)	67.4	12.8	4.4	3.0	3.2	1.4	1.1
西欧(260社)	73.5	5.5	4.9	1.0	4.1	1.6	1.5
英国(76社)	75.1	5.7	3.5	1.2	5.3	0.4	0.4
ドイツ(49社)	75.6	4.6	2.1	1.1	4.7	0.4	3.0
フランス(32社)	77.0	2.3	5.8	0.0	3.3	0.6	2.8
オランダ(22社)	67.8	5.1	10.5	0.5	3.1	4.2	2.2
スペイン(16社)	74.4	7.1	1.2	1.8	3.1	0.0	1.3
中・東欧・トルコ(90社)	49.7	33.9	2.8	8.7	0.4	0.9	0.0
ハンガリー(25社)	49.6	40.0	5.5	0.0	0.2	0.0	0.0
ポーランド(21社)	48.7	40.8	0.6	2.5	0.5	0.0	0.0
チェコ(15社)	53.4	43.7	1.0	0.2	0.3	0.3	0.0

欧州市場での平均販売比率を業種別に見ると、「窯業・土石」(98.8%)、「金属製品」(92.5%)、「プラスチック製品」(91.8%)と9割を超えている。【図表 21】

図表 21 欧州市場での平均販売比率が高い業種

1. 窯業・土石	98.8%(4社)	4. 非鉄金属	87.8%(5社)
2. 金属製品	92.5%(10社)	5. 電気・電子部品	86.9%(29社)
3. プラスチック製品	91.8%(18社)	6. 輸送用機器部品	86.4%(85社)

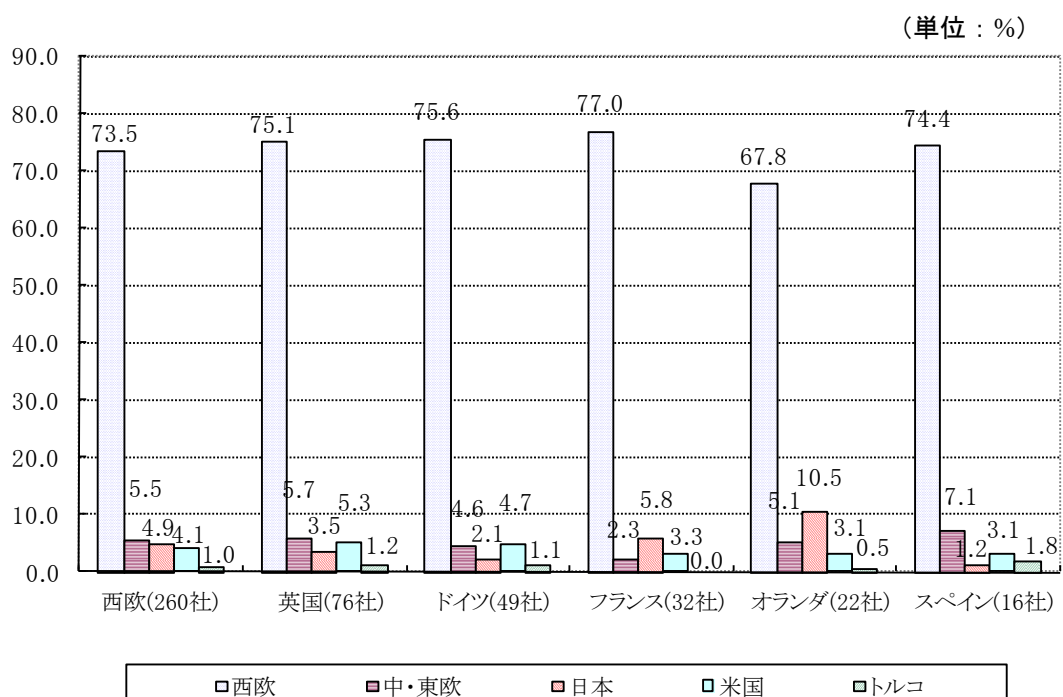
※欧州市場での平均販売比率は西欧、中・東欧を製品別に合計し、その数を回答企業数で単純に割った数。

〔西欧地域〕

在西欧日系製造業の販売先と平均販売比率を見ると、同じ西欧が73.5%と最大となっている。次いで中・東欧(5.5%)、日本(4.9%)であった。

国別で見ると在オランダ日系製造業は西欧が67.8%と他国より低い一方、日本への平均販売比率は10.5%と比較的高い。【図表 22】

図表 22 【西欧(主要国)】日系製造業の販売先と平均販売比率



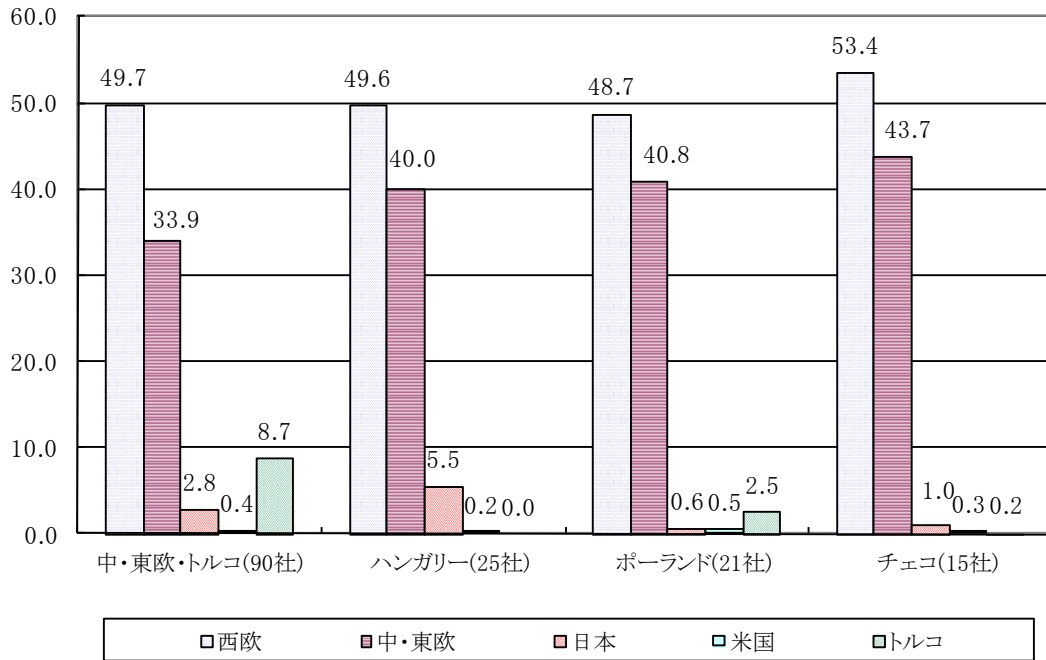
〔中・東欧・トルコ地域〕

在中・東欧・トルコ日系製造業の販売先と平均販売比率を見ると、最も多いのは西欧で49.7%であった。次いで中・東欧への販売が33.9%である。

国別に見ると、販売先の傾向は概ね同様であり、各国とも西欧・中東欧など欧州への平均販売比率が高い。【図表 23】

図表 23 【中・東欧・トルコ（主要国）】日系製造業の販売先と平均販売比率

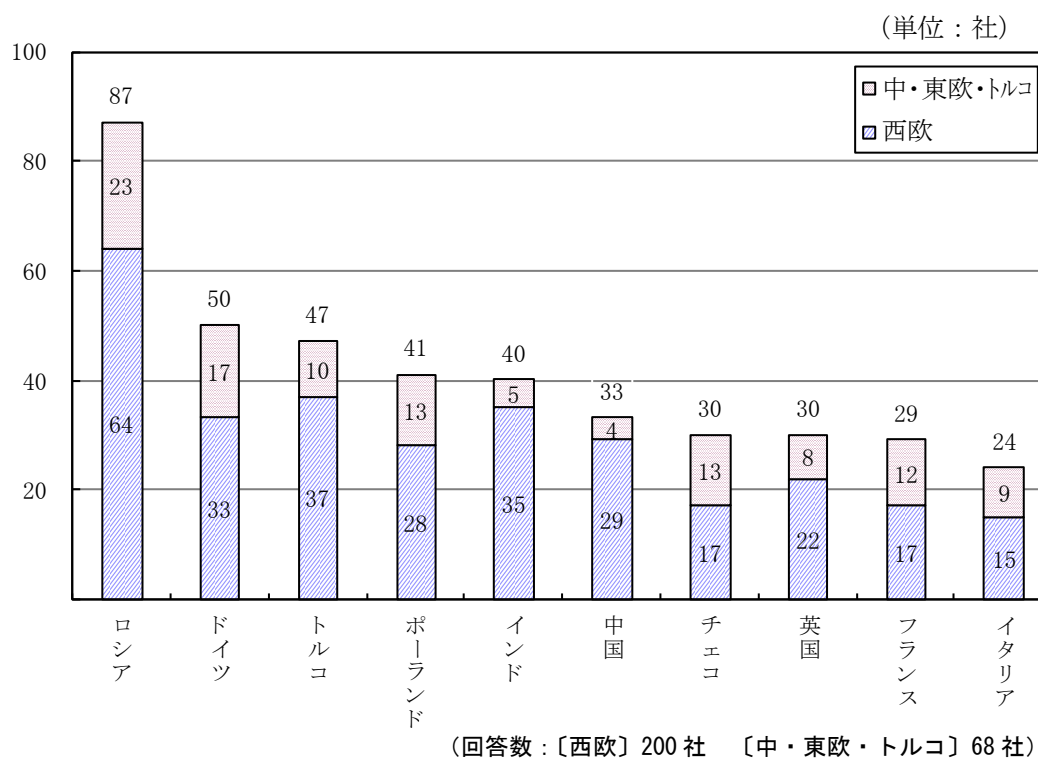
(単位：%)



(2) 将来有望な販売先

在欧州・トルコ日系製造業の、将来有望な販売先については2010年調査結果と同様にロシア(87社)が1位となった。次いでドイツ(50社)、トルコ(47社)、ポーランド(41社)、インド(40社)、中国(33社)、チェコ(30社)、英国(30社)、フランス(29社)、イタリア(24社)と続いている。【図表24】

図表24 日系製造業の将来有望な販売先<複数回答>



これらの国々が将来有望な理由として、ロシア・CISについては「未開拓の市場だが今後成長が期待できる国のため」が最も多く(72.4%)、西欧については「既存の取引先企業が存在するため」が最も多い(50.6%)。

また、中東や、中・東欧でも「未開拓の市場だが今後成長が期待できる国のため」が最も多かった(60.4%、47.6%)。【巻末表Ⅲ-2-4】

3. 生産について

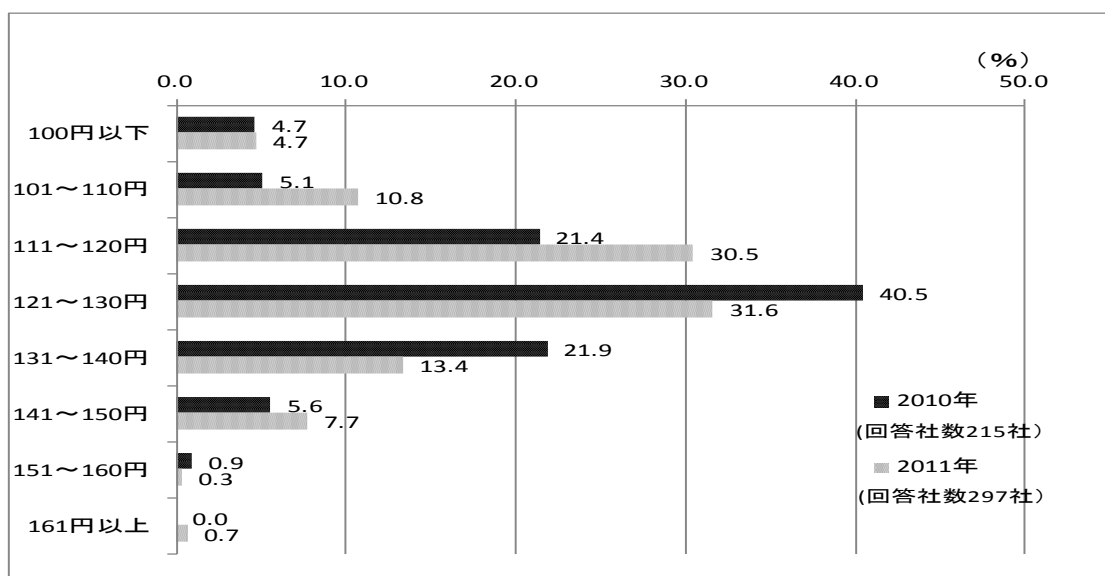
- ・ 現地生産活動を行う上で望ましい為替水準の平均は1ユーロ=125円となった。アンケート実施期間中（7～8月）のユーロの対円レートは、最安値で1ユーロ=110円であり、企業の想定値と実際の為替レートは大きく乖離している。【図表 25】
- ・ 今後1～2年に事業展開（生産体制）を「拡大」するのは西欧で51.4%、中・東欧・トルコで49.5%である。【図表 26.27】
- ・ 事業を「拡大」と回答した企業の具体的事業拡大方針では、「追加投資による事業規模の拡大」が最も多く挙げられ、西欧は62.7%、中・東欧・トルコでは60.9%の企業が挙げている。【図表 28.29】
- ・ 中長期的（5～10年）に生産拠点として有望とみている国・地域として、「中国」（60社）、「ロシア」（50社）、「インド」（49社）などが上位に挙げられた。【図表 31】

（1）現地生産活動を行う上で望ましい為替水準

在欧州・トルコ日系製造業が、現地にて生産活動を行う上で望ましい為替水準の平均は1ユーロ=125円となった。2010年調査結果（1ユーロ=128円）よりやや円高・ユーロ安となった。ただ、アンケート実施期間中（7～8月）のユーロの対円レートは、最安値で1ユーロ=110円であり、企業の想定値と実際の為替レートは大きく乖離している。一方、望ましい為替水準を「1ユーロ=101～110円」とする企業は2010年の5.1%から10.8%に倍増、「111～120円」とする企業は、21.4%から30.5%に増加、「131～140円」とする企業は21.9%から13.4%に減少するなど、日系企業の円高対策も進んでいるものとみられる。

【図表 25】

図表 25 日系製造業の望ましい為替水準



(2) 今後1～2年の事業展開（生産体制）の方向性

〔欧州・トルコ全体〕

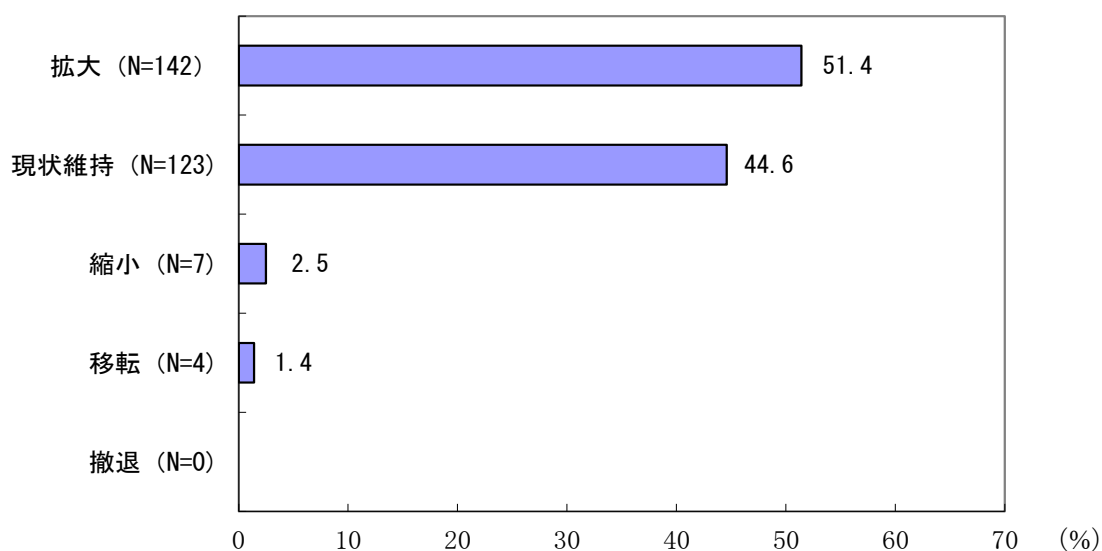
在欧州・トルコ日系製造業の、今後1～2年の事業展開（生産体制）は、「拡大」と回答した企業は50.9%（188社）で、2010年調査結果（42.9%）から8.0ポイント増加した。

「現状維持」は44.7%、「縮小」は3.3%であった。【巻末表Ⅲ-3-3】

〔西欧地域〕

西欧地域では、「拡大」と回答した企業は51.4%で、2010年調査結果（39.1%）より12.3ポイント増加し、「現状維持」は44.6%、「縮小」は2.5%だった。【図表26】

図表26 【西欧】日系製造業の今後1～2年の事業展開（生産体制）の方向性



(回答数:276社)

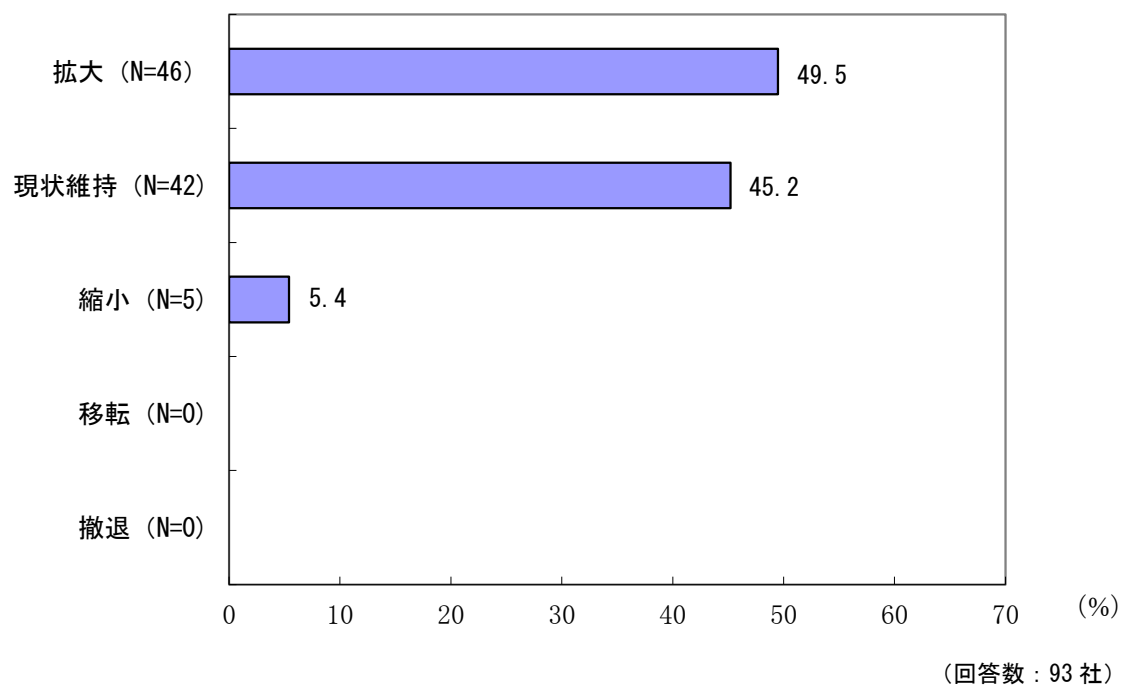
〔中・東欧・トルコ地域〕

中・東欧・トルコ地域では、「拡大」とする企業が 49.5%（46 社）で、2010 年調査結果（54.7%）を 5.2 ポイント下回った。

「現状維持」と回答した企業は 45.2%、「縮小」は 5.4%であった。

「移転」「撤退」という回答は 0 である。【図表 27】

図表 27 【中・東欧・トルコ】日系製造業の今後 1～2 年の事業展開（生産体制）の方向性



(3) 「拡大」すると回答した企業の具体的な方針

〔欧州・トルコ全体〕

事業展開を「拡大」すると回答した企業の具体的な拡大方針では、「追加投資による事業規模の拡大」が最多の62.2%であった。2010年調査結果で最多の「生産品目の拡大(多角化)」は46.8%と、2010年調査結果(64.9%)より18.1ポイント減少している。【巻末表Ⅲ-3-4】

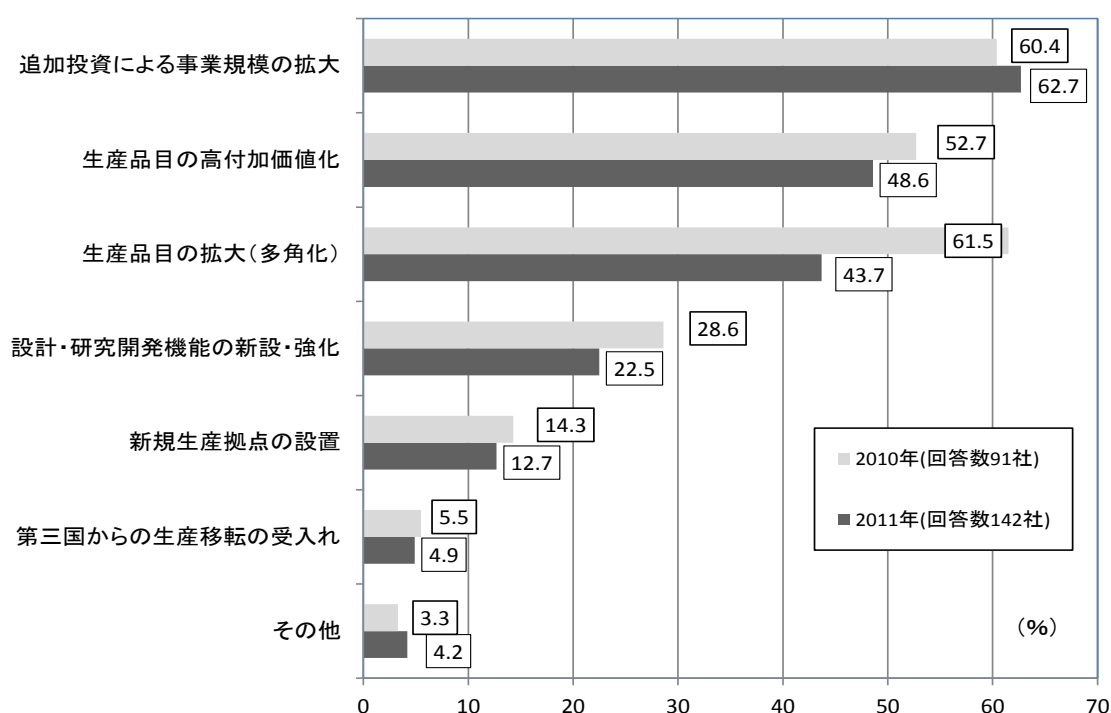
〔西欧地域〕

事業展開を「拡大」すると回答した企業の具体的な拡大方針では、「追加投資による事業規模の拡大」が最多の62.7%で、次いで「生産品目の高付加価値化」が48.6%、「生産品目の拡大(多角化)」が43.7%となった。

なお「生産品目の拡大(多角化)」は2010年調査結果の61.5%から大きく減少した。

【図表 28】

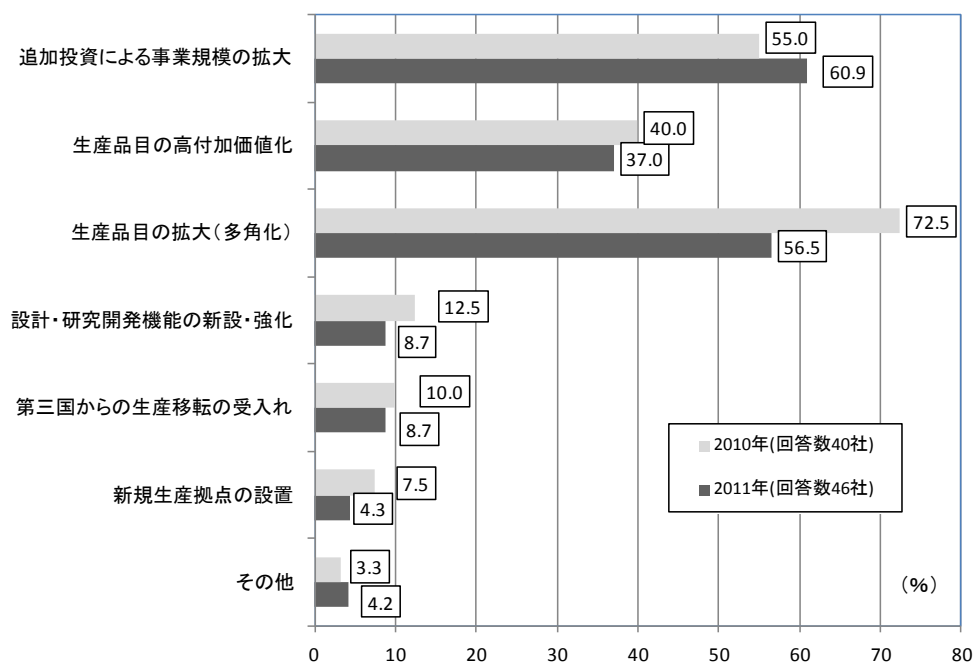
図表 28 【西欧】日系製造業の具体的事業拡大方針<複数回答>



〔中・東欧・トルコ地域〕

西欧地域と上位3項目は同様の傾向であり、「追加投資による事業規模の拡大」が60.9%と最も多い。次いで「生産品目の拡大(多角化)」(56.5%)、「生産品目の高付加価値化」(37.0%)と続く。また、西欧と同様に「生産品目の拡大(多角化)」が2010年調査結果の72.5%から大きく減少した。【図表29】

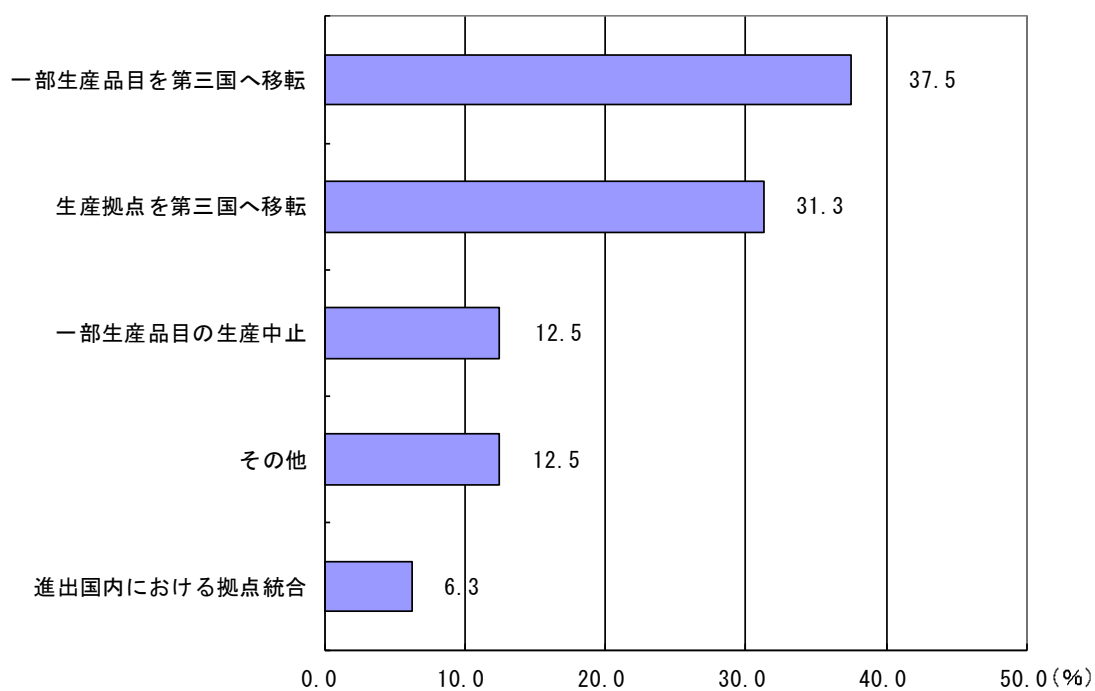
図表29 【中・東欧、トルコ】日系製造業の具体的事業拡大方針<複数回答>



(4) 縮小・移転・撤退すると回答した企業の具体的な方針

今後1～2年の事業展開の方向性として、事業規模を縮小、移転、あるいは撤退と回答した企業で、最も多いのは「一部生産品目を第三国へ移転」(37.5%)で、次いで「生産拠点を第三国へ移転」(31.3%)、「一部生産品目の生産中止」(12.5%)であった。【図表 30】

図表 30 日系製造業の縮小・移転・撤退の具体的な方針<複数回答>



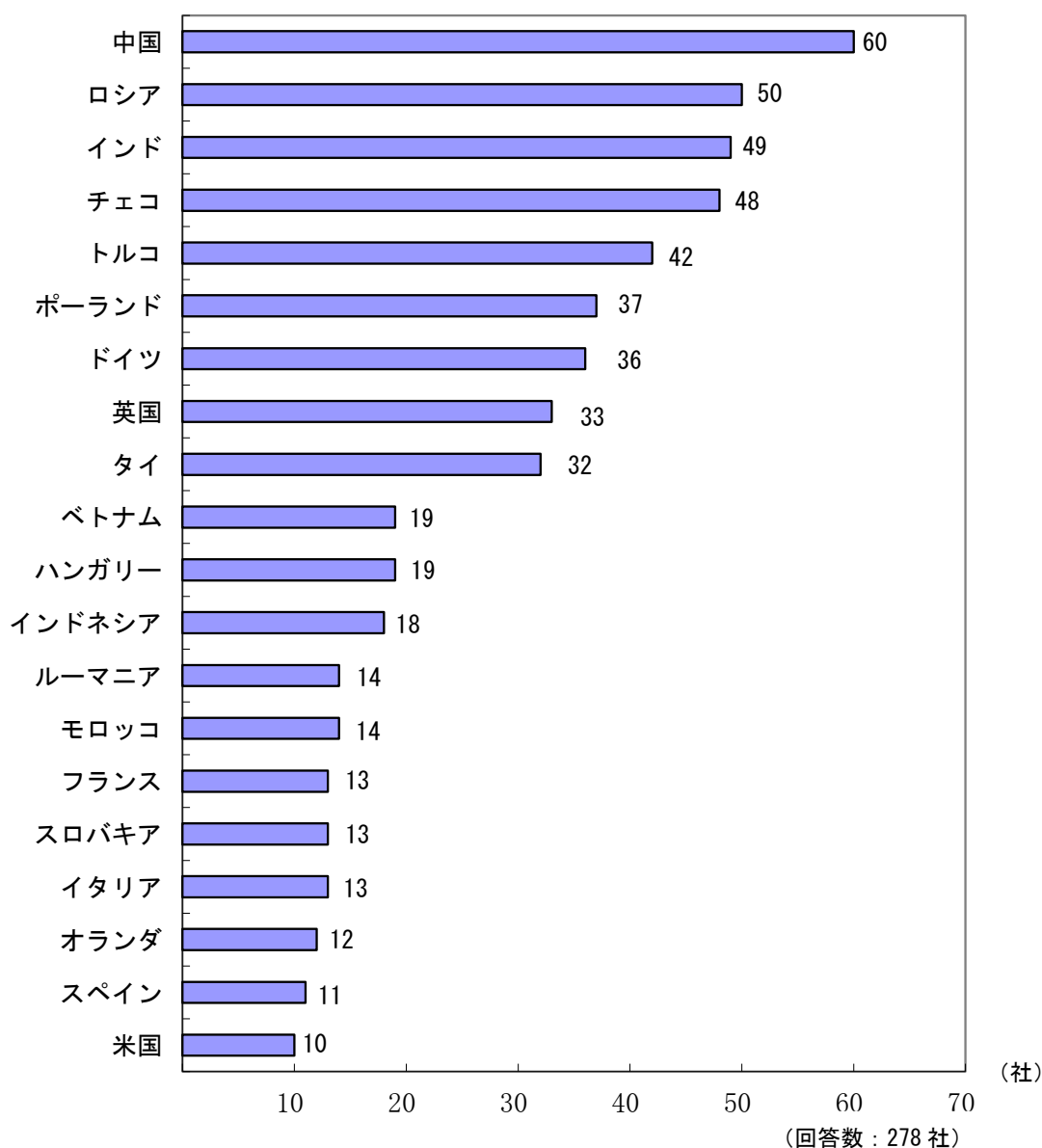
(回答数 16 社)

(5) 中長期的（5～10年程度）に、生産拠点として有望と評価されている国・地域

在欧州・トルコ日系製造業が、中長期的（5～10年程度）に、生産拠点として有望と見ている国・地域として挙げた国（上位から最大5カ国）は、中国（60社）で、2010年調査結果（38社）と同様に1位だった。

次いでロシア（50社）、インド（49社）であり、上位3位までは2010年調査結果と同様である。【図表31】

図表31 【欧州・トルコ】日系製造業の中長期的（5～10年程度）に生産拠点として有望と評価されている国・地域＜複数回答＞



IV. 経営上の問題点

〔欧州・トルコ全体〕

- ・ 在欧州・トルコ日系製造業で経営上の問題点として最も多くの意見として挙げられたのは、2010年調査結果同様「不安定な為替変動」（47.7%）である。次いで「ユーロ財政危機に端を発する欧州の景気低迷」（45.8%）、「競合企業の製品価格の低下」（43.3%）、「労働コストの高さ」（39.5%）となっている。【図表 32】

〔西欧地域〕

- ・ 在西欧日系製造業では、「労働コストの高さ」（48.5%）が最も多い。次いで「不安定な為替変動」（47.4%）、「競合企業の製品価格の低下」（44.9%）、「ユーロ財政危機に端を発する欧州の景気低迷」（44.1%）と続いた。【図表 33】

〔中・東欧・トルコ地域〕

- ・ 在中東欧・トルコ日系製造業では、「ユーロ財政危機に端を発する欧州の景気低迷」（50.5%）が最も多く、「不安定な為替変動」（48.4%）、「技術系人材の確保」（45.2%）、「競合企業の製品価格の低下」（38.7%）と続いた。【図表 33】
- ・ 「労働コスト上昇率の高さ」（35.5%）は、2010年調査結果同様、西欧（18.8%）に比べると2倍近い割合となり、上位に入っている。【図表 33】
- ・ 「高速道路」、「一般道路事情」、などインフラの不備に関する問題も、西欧に比べると依然高い割合である。【図表 33】

1. 在西欧日系製造業、在中・東欧・トルコ日系製造業に共通する経営上の問題点

在欧州・トルコ日系製造業で経営上の問題点として最も多くの意見として挙げられたのは、2010年調査結果同様「不安定な為替変動」（47.7%）である。次いで「ユーロ財政危機に端を発する欧州の景気低迷」（45.8%）、「競合企業の製品価格の低下」（43.3%）、「労働コストの高さ」（39.5%）となっている。【図表 32】

図表32 【在欧州・トルコ】日系製造業の経営上の問題点＜複数回答＞

1	不安定な為替変動	47.7%	174社
2	ユーロ財政危機に端を発する欧州の景気低迷	45.8%	167社
3	競合企業の製品価格の低下	43.3%	158社
4	労働コストの高さ	39.5%	144社
5	調達コスト	38.4%	140社

企業規模別に見ると、大企業で「不安定な為替変動」(47.2%)が最多、中小企業で「不安定な為替変動」と「競合企業の製品価格の低下」が同率1位(55.0%)となった。

取扱製品別では、最終財が「不安定な為替変動」(50.3%)で第1位であるが、中間財では「ユーロ財政危機に端を発する欧州の景気低迷」(46.6%)が第1位である。【巻末表IV-1-2】

図表33 在欧日系製造業の経営上の問題点

【西欧】日系製造業（回答企業数272）

<複数回答>

	項目	(%)
1	労働コストの高さ	48.5
2	不安定な為替変動	47.4
3	競合企業の製品価格の低下	44.9
4	ユーロ財政危機に端を発する欧州の景気低迷	44.1
5	調達コスト	38.6
6	新たな競合企業の出現	32.7
7	厳格な解雇法制	30.5
8	技術系人材の確保	28.7
9	移転価格税制	26.8
10	社会保障負担の高さ	25.7
11	REACH	24.3
12	経営管理職クラス人材の確保	21.0
13	労働力の質	20.6
14	納期	20.2
15	労働コスト上昇率の高さ	18.8
15	進出先国の経済情勢	18.8
17	ビザ・労働許可	18.4
18	労働組合活動・ストライキ	18.0
19	現地調達先の不足	16.9
20	品質	16.5
21	代金回収	13.2
22	競合企業の製品品質の向上	12.9
23	通関	12.1
24	一般工員人材の確保	10.7
25	政治情勢	10.3
26	東日本大震災の影響	8.8
27	RoHS	8.1
28	頻繁な制度改定	6.3
28	税率の変更	6.3
28	事務系スタッフ人材の確保	6.3
28	通信	6.3
32	資金調達	5.9
33	付加価値税（VAT）の還付手続きが煩雑・不透明	5.1
34	環境規制 その他	4.8
35	WEEE	4.4
36	電力供給	3.3
37	一般道路事情	2.9
38	投資優遇措置の不透明な運用	2.6
38	税制度 行政手続きが煩雑・不透明	2.6
38	労務問題 その他	2.6
38	金利	2.6
38	鉄道	2.6
43	貿易制度 行政手続きが煩雑・不透明	2.2
43	投資制度 行政手続きが煩雑・不透明	2.2
43	自動車CO2規制	2.2
46	貿易制度・手続き その他	1.5
46	原材料・部品調達 その他	1.5
46	高速道路	1.5
46	インフラの不備 その他	1.5
50	税制度 その他	1.1

【中・東欧、トルコ】日系製造業（回答企業数9）

<複数回答>

	項目	(%)
1	ユーロ財政危機に端を発する欧州の景気低迷	50.5
2	不安定な為替変動	48.4
3	技術系人材の確保	45.2
4	競合企業の製品価格の低下	38.7
5	調達コスト	37.6
6	労働コスト上昇率の高さ	35.5
6	経営管理職クラス人材の確保	35.5
8	現地調達先の不足	32.3
9	移転価格税制	29.0
10	ビザ・労働許可	28.0
11	社会保障負担の高さ	25.8
11	労働力の質	25.8
11	新たな競合企業の出現	25.8
14	通関	23.7
14	品質	23.7
16	高速道路	22.6
17	頻繁な制度改定	21.5
18	厳格な解雇法制	20.4
18	一般道路事情	20.4
20	納期	17.2
21	REACH	16.1
22	一般工員人材の確保	15.1
22	労働組合活動・ストライキ	15.1
22	電力供給	15.1
22	政治情勢	15.1
26	付加価値税（VAT）の還付手続きが煩雑・不透明	14.0
27	労働コストの高さ	12.9
28	税率の変更	11.8
28	金利	11.8
28	通信	11.8
31	投資優遇措置の不透明な運用	10.8
31	競合企業の製品品質の向上	10.8
33	税制度 行政手続きが煩雑・不透明	9.7
33	事務系スタッフ人材の確保	9.7
35	RoHS	8.6
36	貿易制度 行政手続きが煩雑・不透明	7.5
36	投資制度 行政手続きが煩雑・不透明	7.5
38	原材料・部品調達 その他	6.5
38	鉄道	6.5
38	東日本大震災の影響	6.5
41	税制度 その他	5.4
41	進出先国の経済情勢	5.4
43	資金調達	4.3
44	貿易制度・手続き その他	3.2
44	代金回収	3.2
44	WEEE	3.2
44	ELV	3.2
44	自動車CO2規制	3.2
49	労務問題 その他	2.2
49	インフラの不備 その他	2.2

2. 在西欧日系製造業の経営上の問題点

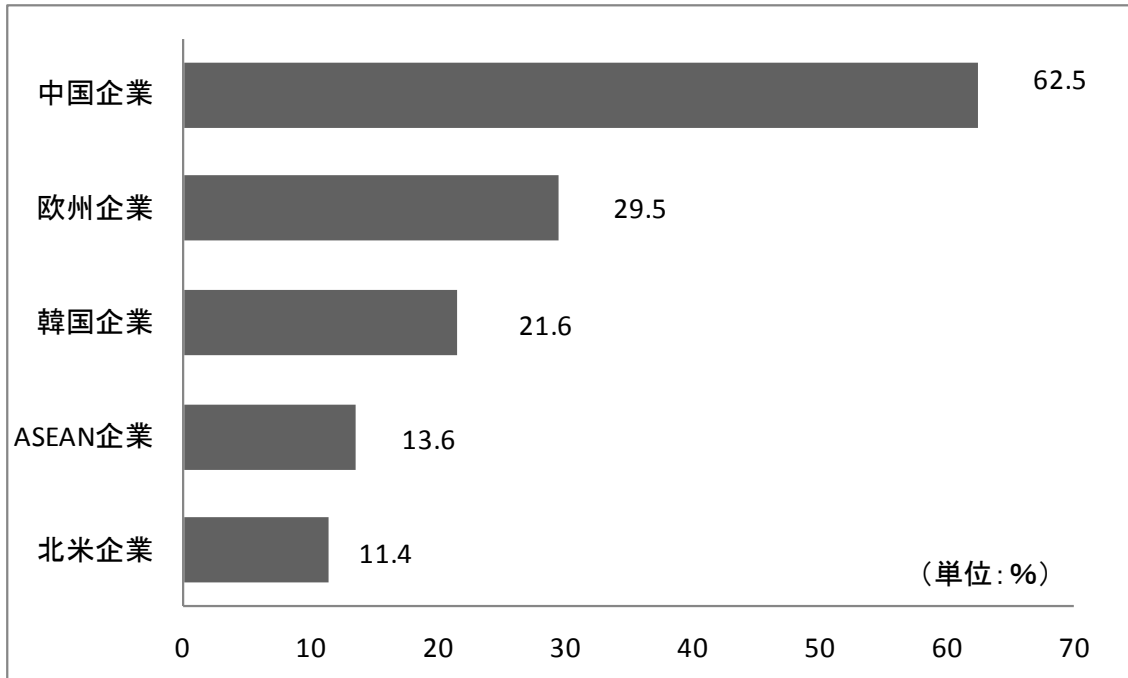
在西欧日系製造業全体において、問題点として最も多くの企業が挙げたのは、2010年調査結果と同様、「労働コストの高さ」（48.5％）であった。第2位は「不安定な為替変動」（47.4％）、次いで「競合企業の製品価格の低下」（44.9％）となった。2010年調査の新規項目である「ユーロ財政危機に端を発する欧州の景気低迷」は44.1％で第4位となった。「新たな競合先の出現」も32.7％で6位に入り【図表33】、競争相手の資本国籍として、6割以上が中国を挙げている。【図表35】

主要国をみると、英国は「不安定な為替変動」（61.4％）、ドイツは「労働コストの高さ」（61.7％）、フランスは「ユーロ財政危機に端を発する欧州の景気低迷」（51.4％）、スペインは「厳格な解雇法制」（47.1％）が第1位だった。【図表34】

図表34 【西欧主要国（英国、ドイツ、フランス、スペイン）】日系製造業の経営上の問題点
＜複数回答＞

	英国 (回答企業数83)		ドイツ (回答企業数47)		フランス (回答企業数35)		スペイン (回答企業数17)	
		(%)		(%)		(%)		(%)
1	不安定な為替変動	61.4	労働コストの高さ	61.7	ユーロ財政危機に端を発する 欧州の景気低迷	51.4	厳格な解雇法制	47.1
2	競合企業の製品価格の低下	43.4	競合企業の製品価格の低下	44.7	労働コストの高さ	48.6	調達コスト	47.1
3	ユーロ財政危機に端を発する 欧州の景気低迷	43.4	調達コスト	40.4	労働組合活動・ストライキ	48.6	競合企業の製品価格の低下	47.1
4	技術系人材の確保	39.8	ユーロ財政危機に端を発する 欧州の景気低迷	38.3	不安定な為替変動	48.6	進出先国の経済情勢	47.1
5	調達コスト	38.6	厳格な解雇法制	36.2	競合企業の製品価格の低下	40.0	ビザ・労働許可	41.2
6	労働コストの高さ	36.1	不安定な為替変動	36.2	移転価格税制	37.1	労働コストの高さ	35.3
7	新たな競合企業の出現	32.5	技術系人材の確保	34.0	厳格な解雇法制	37.1	労働組合活動・ストライキ	29.4
8	現地調達先の不足	27.7	移転価格税制	29.8	調達コスト	37.1	不安定な為替変動	29.4
9	ビザ・労働許可	25.3	労働コスト上昇率の高さ	29.8	社会保障負担の高さ	34.3	新たな競合企業の出現	29.4
10	労働力の質	22.9	社会保障負担の高さ	29.8	新たな競合企業の出現	34.3	移転価格税制	23.5
11	REACH	22.9	REACH	29.8	納期	28.6	納期	23.5
12	移転価格税制	21.7	納期	27.7	経営管理職クラス人材の確保	22.9	REACH	23.5
13	経営管理職クラス人材の確保	21.7	新たな競合企業の出現	27.7	労働力の質	22.9	ユーロ財政危機に端を発する 欧州の景気低迷	23.5
14	進出先国の経済情勢	21.7	経営管理職クラス人材の確保	23.4	通関	17.1	通関	17.6
15	品質	20.5	競合企業の製品品質の向上	19.1	技術系人材の確保	17.1	労働コスト上昇率の高さ	17.6
16	厳格な解雇法制	19.3	労働力の質	17.0	進出先国の経済情勢	17.1	代金回収	17.6
17	納期	18.1	政治情勢	17.0	代金回収	14.3	現地調達先の不足	17.6
18	東日本大震災の影響	18.1	一般工員人材の確保	12.8	品質	14.3	政治情勢	17.6
19	社会保障負担の高さ	13.3	RoHS	12.8	労働コスト上昇率の高さ	11.4	社会保障負担の高さ	11.8
20	労働コスト上昇率の高さ	12.0	付加価値税（VAT）の選付手 続きが煩雑・不透明	10.6	一般工員人材の確保	11.4	労働力の質	11.8

図表35 【西欧】競合企業の資本国籍



(回答数: 88社)

3. 在中東欧・トルコ日系製造業の経営上の問題点

在中東欧・トルコ日系製造業において、問題点として最も多くの企業が挙げたのは「ユーロ財政危機に端を発する欧州の景気低迷」(50.5%)、第2位は「不安定な為替変動」(48.4%)であった。第3位は「技術系人材の確保」(45.2%)となった。【図表33】
特にハンガリーでは「技術系人材の確保」が72.0%と1位になり、人材不足が深刻である。

【図表36】

なお、在中東欧・トルコ日系製造業の問題点の第4位は「競合企業の製品価格の低下」(38.7%)となった。「労働コスト上昇率の高さ」(35.5%)は、2010年調査結果同様、西欧(18.8%)に比べると2倍近い割合で上位に入っている。「高速道路」、「一般道路事情」、などインフラの不備に関する問題も、西欧に比べると依然高い割合である。【図表33】

ポーランドでは「ユーロ財政危機に端を発する欧州の景気低迷」(47.8%)、チェコでは「ビザ・労働許可」(81.3%)が第1位だった。【図表36】

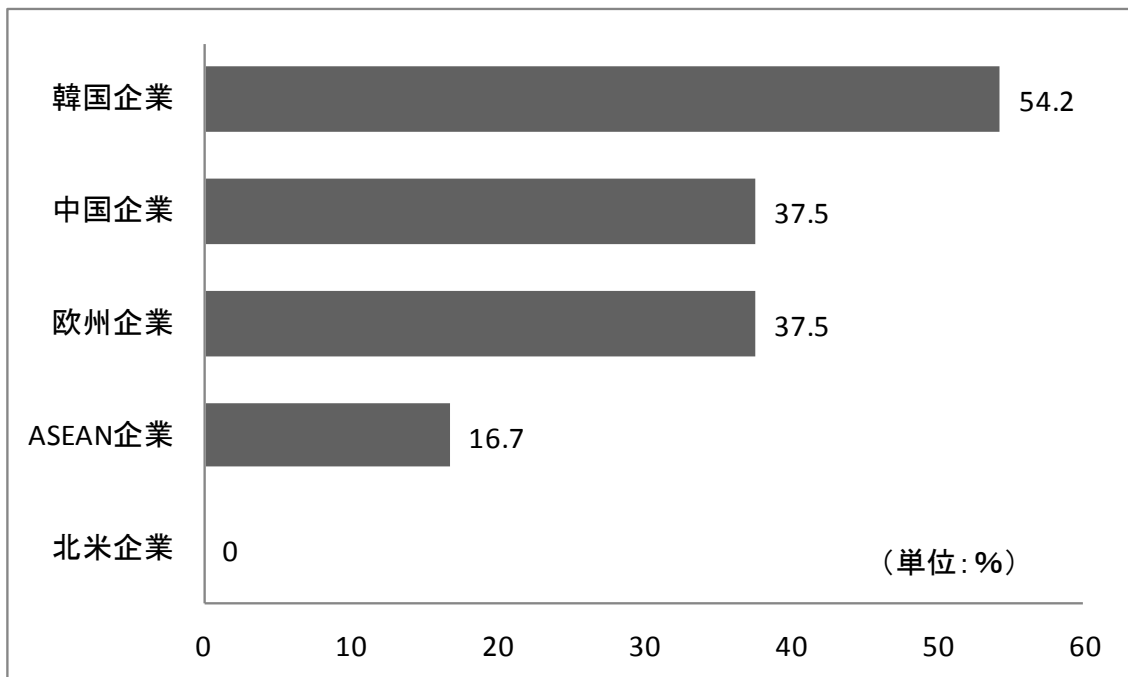
なお、在中東欧・トルコ日系製造業にとっての競合先の資本国籍では、韓国が1位で、54.2%となった。【図表37】

<複数回答>

図表36 【中・東欧主要国（ポーランド、チェコ、ハンガリー）】日系製造業の経営上の問題点

	ハンガリー		ポーランド		チェコ	
	(回答企業数25)	(%)	(回答企業数23)	(%)	(回答企業数16)	(%)
1	技術系人材の確保	72.0	ユーロ財政危機に端を発する 欧州の景気低迷	47.8	ビザ・労働許可	81.3
2	経営管理職クラス人材の確保	48.0	高速道路	43.5	不安定な為替変動	62.5
3	社会保障負担の高さ	44.0	労働コスト上昇率の高さ	39.1	競合企業の製品価格の低下	56.3
4	労働力の質	44.0	不安定な為替変動	39.1	ユーロ財政危機に端を発する 欧州の景気低迷	56.3
5	移転価格税制	40.0	競合企業の製品価格の低下	39.1	技術系人材の確保	50.0
6	不安定な為替変動	40.0	一般道路事情	39.1	調達コスト	50.0
7	現地調達先の不足	40.0	移転価格税制	34.8	品質	37.5
8	新たな競合企業の出現	40.0	技術系人材の確保	34.8	納期	37.5
9	競合企業の製品価格の低下	40.0	調達コスト	34.8	移転価格税制	31.3
10	労働コスト上昇率の高さ	36.0	現地調達先の不足	34.8	社会保障負担の高さ	31.3
11	調達コスト	36.0	通関	30.4	経営管理職クラス人材の確保	31.3
12	ユーロ財政危機に端を発する 欧州の景気低迷	32.0	経営管理職クラス人材の確保	30.4	労働力の質	31.3
13	品質	28.0	頻繁な制度改定	26.1	新たな競合企業の出現	31.3
14	頻繁な制度改定	24.0	ビザ・労働許可	21.7	REACH	31.3
15	行政手続きが煩雑・不透明	24.0	付加価値税(VAT)の還付手続 きが煩雑・不透明	21.7	頻繁な制度改定	25.0
16	税率の変更	20.0	一般工員人材の確保	21.7	労働コスト上昇率の高さ	25.0
17	厳格な解雇法制	20.0	労働力の質	21.7	通関	18.8
18	進出先国の経済情勢	20.0	新たな競合企業の出現	21.7	付加価値税(VAT)の還付手続 きが煩雑・不透明	18.8
19	政治情勢	20.0	REACH	21.7	労働コストの高さ	18.8
20	一般工員人材の確保	16.0	投資優遇措置の不透明な運用	17.4	現地調達先の不足	18.8

図表37 【中・東欧、トルコ】競合企業の資本国籍



(回答数: 24社)

V. FTA が与える影響

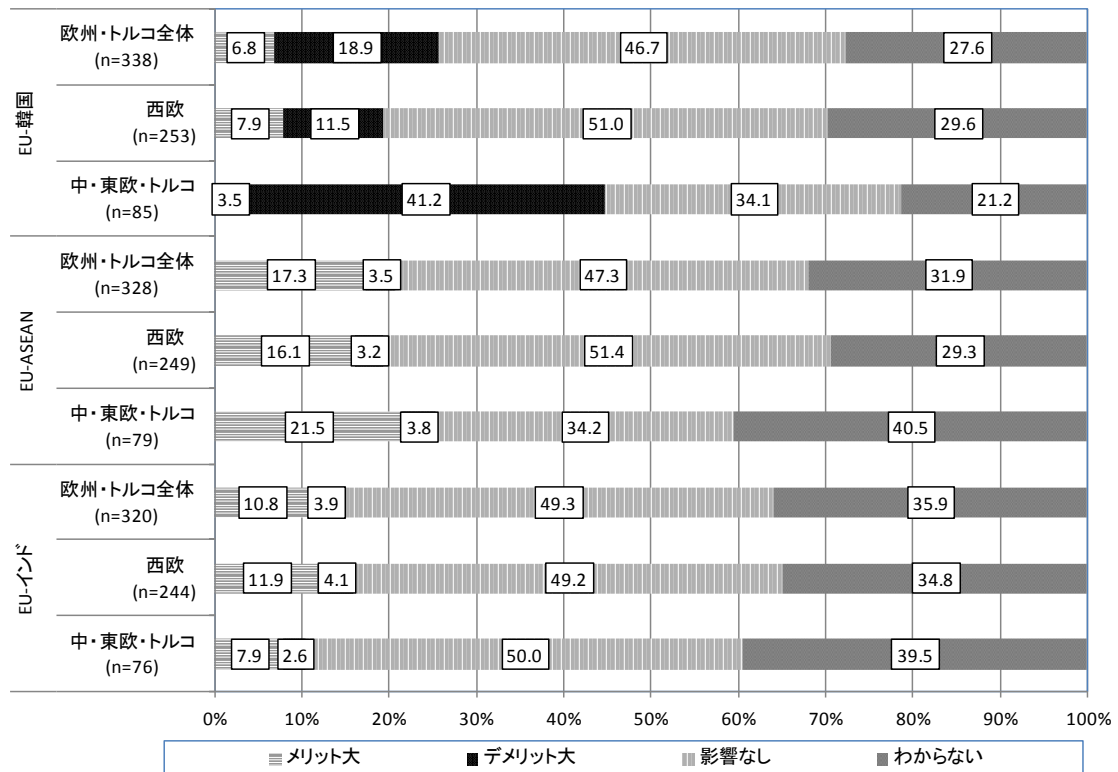
1. EU の FTA が与える影響

EU-韓国自由貿易協定（FTA）が与える影響について、欧州・トルコ全体では「メリット大」6.8%、「デメリット大」18.9%、「影響なし」46.7%、「分からない」27.6%であった。今回調査した EU の FTA で唯一「デメリット大」が「メリット大」を上回っている。EU-韓国 FTA の締結による関税撤廃が韓国企業の完成品・部品(自国産品)調達コスト削減に繋がり、ますます価格競争が激化することへの強い懸念といえる。特に、中・東欧・トルコでは「デメリット大」が41.2%にも達し、西欧（11.5%）の3倍以上となった。【図表 38】

業種別では「輸送用機器（自動車・二輪車）」で「デメリット大」が70.0%と突出している。【巻末表V-1-1】

EU-ASEAN は、「メリット大」（17.3%）が「デメリット大」（3.5%）を大きく上回った。EU-インドでも「メリット大」が10.8%と、1割を超えており、調達および販売先が日本と欧州域内だけでなく、アジアなど新興市場に多角化していることが分かる。【図表 38】

図表38 FTAが与える影響①

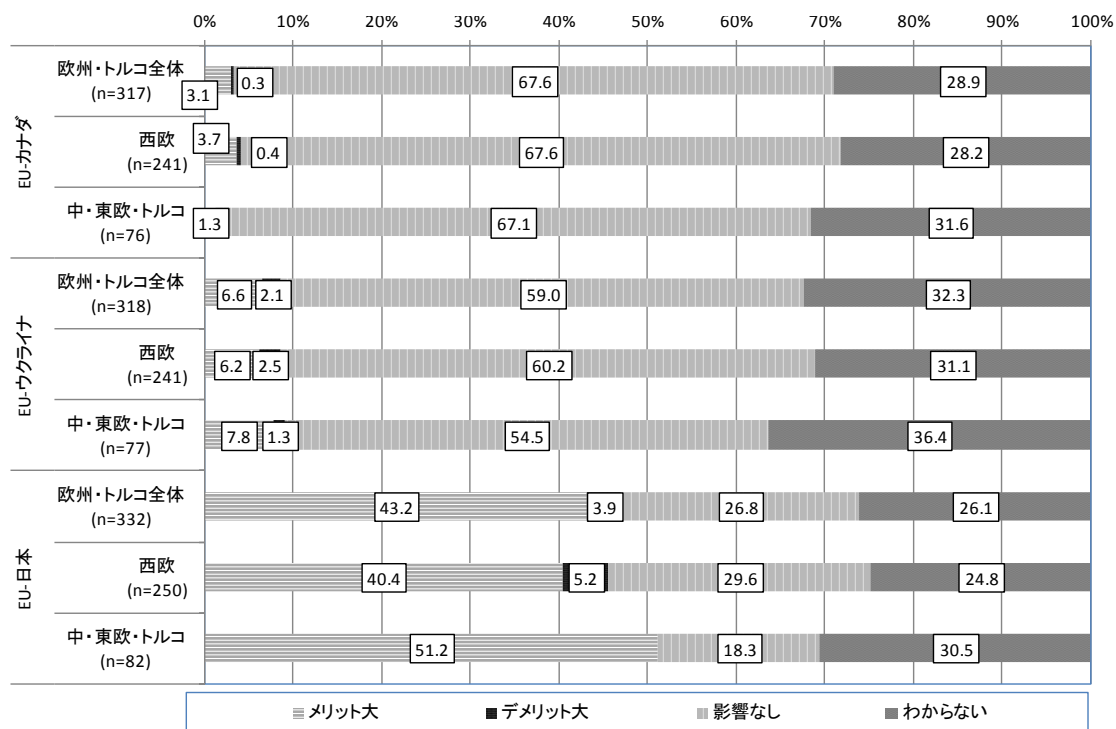


EU-日本 EIA (EPA) の与える影響は、「メリット大」が 43.2%と大きい。特に中・東欧・トルコ (51.2%) が西欧 (40.4%) を大きく上回っている。【図表 39】

業種別では、「輸送用機器 (自動車・二輪車)」で「メリット大」が 87.5%と圧倒的だった。

【巻末表 V-1-1】

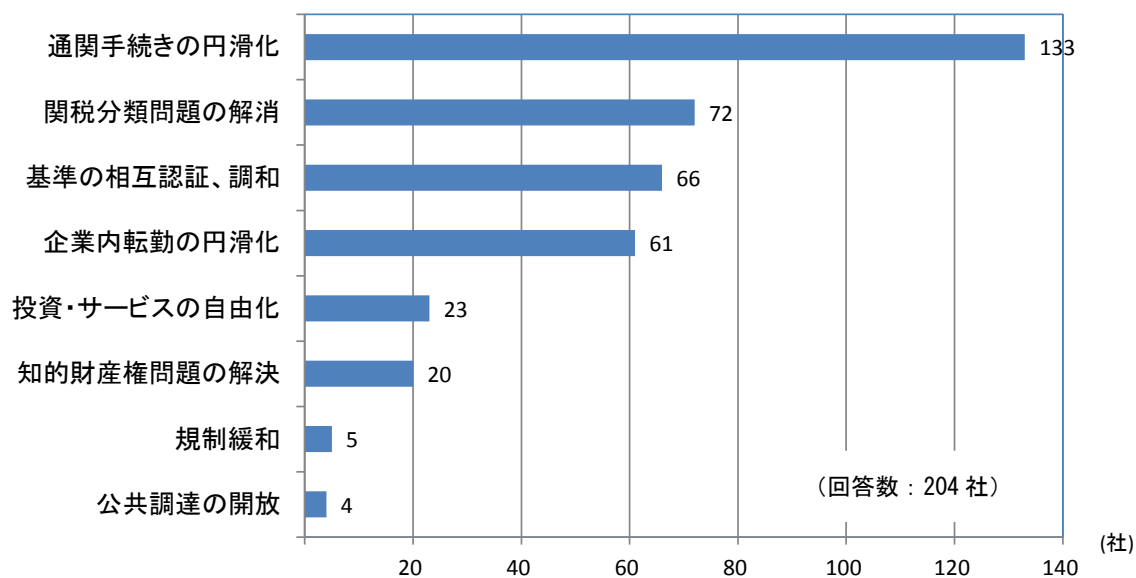
図表39 FTAが与える影響②



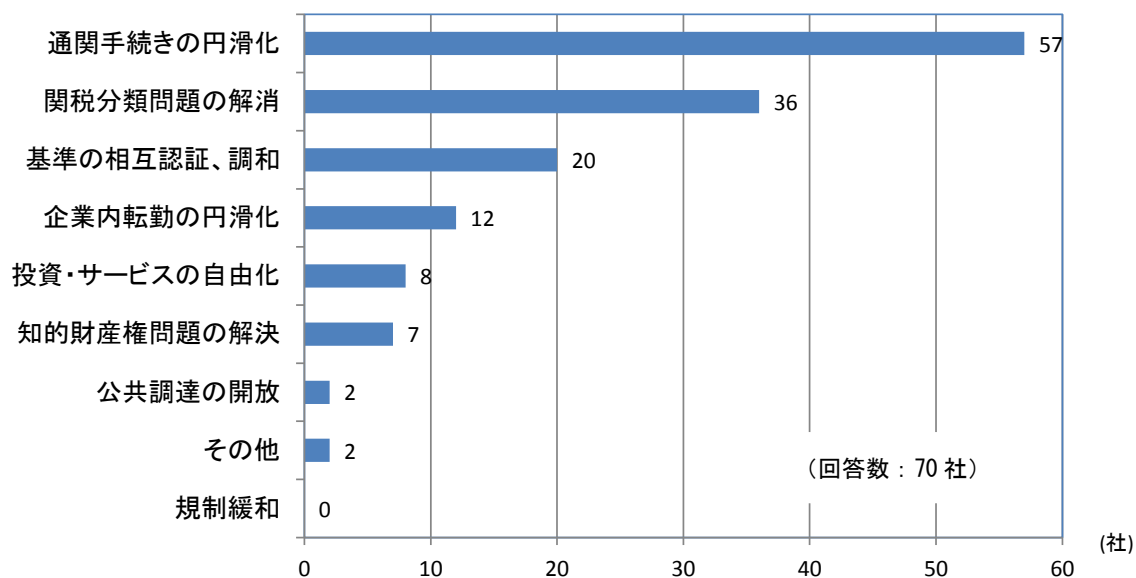
2. EU-日本 EIA（EPA）について期待する内容（関税撤廃以外）

EU-日本 EIA（EPA）について、関税撤廃以外に期待する内容については西欧および中・東欧・トルコともに、「通関手続きの円滑化」が突出して多く、次いで「関税分類問題の解消」、「基準の相互認証、調和」、「企業内転勤の円滑化」の順であった。【図表 40,41】

図表40 【西欧】日系製造業が関税撤廃以外で期待する内容



図表41 【中・東欧、トルコ】日系製造業が関税撤廃以外で期待する内容



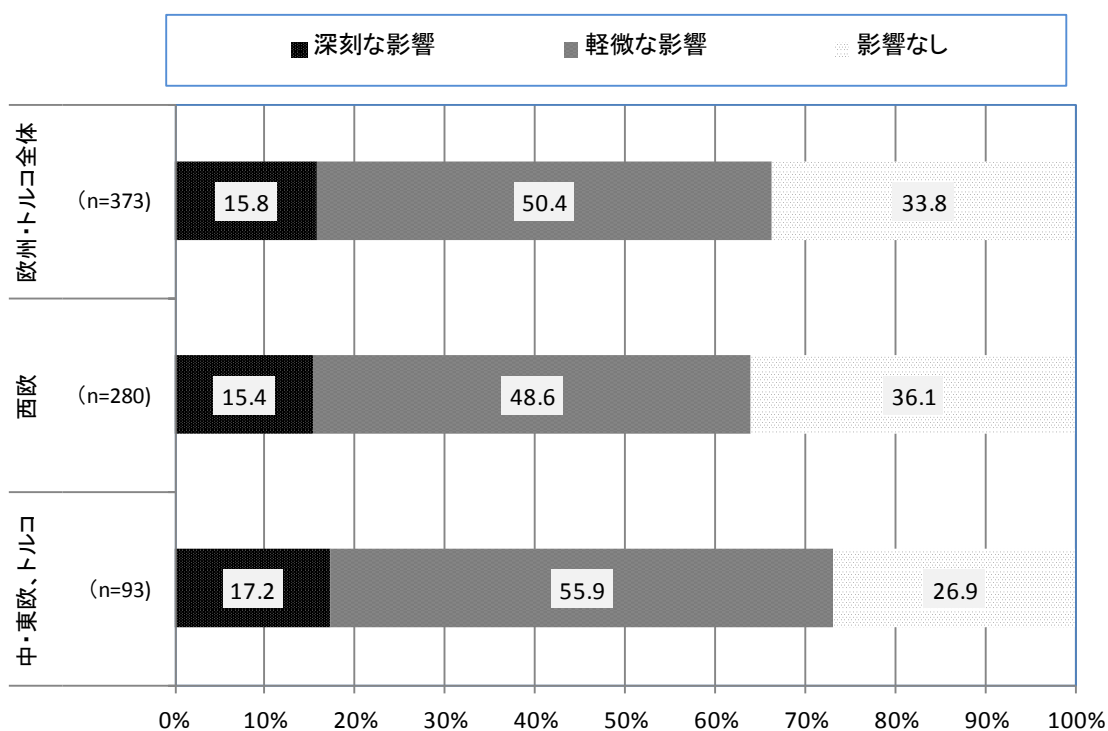
VI. 東日本大震災の影響と対応

1. 東日本大震災の影響の有無

欧州・トルコ全体では「深刻な影響」があったとの回答が 15.8%、「軽微な影響」があったとの回答が 50.4%で、これらを合わせると、66.2%の企業が何らかの影響があったと回答した。

地域別に見ると、西欧は「深刻な影響」(15.4%)と「軽微な影響」(48.6%)であり、合わせて 64.0%の企業が影響を受けている。一方、中・東欧・トルコでは「深刻な影響」(17.2%)と「軽微な影響」(55.9%)を合わせて 73.1%であり、西欧より影響があった企業の割合が大きい。【図表 42】

図表42 東日本大震災の影響



業種別に見ると、最も影響が大きかったのは「輸送用機器（自動車・二輪車）」で、「深刻な影響」は 54.5%で、「軽微な影響」（27.3%）と合わせて 81.8%が影響を受けている。次いで、影響を受けた割合が高いのは「輸送用機器部品（自動車・二輪車）」の 79.8%（「深刻な影響」 27.0%、「軽微な影響」 52.8%）、「電気機械・電子機器」 75.0%（「深刻な影響」 8.3%、「軽微な影響」 66.7%）と続いた。他方、影響が少なかったのは「プラスチック製品」で 72.2%が「影響なし」とした。【図表 43】

図表43 東日本大震災の影響（業種別）

(%)

主な業種(回答数10社以上)	回答数	影響あり		影響あり	影響なし
		深刻な影響	軽微な影響		
1 輸送用機器(自動車・二輪車)	(n=11)	54.5	27.3	81.8	18.2
2 輸送用機器部品(自動車・二輪車)	(n=89)	27.0	52.8	79.8	20.2
3 電気機械・電子機器	(n=24)	8.3	66.7	75.0	25.0
4 食品・農水産加工	(n=15)	20.0	53.3	73.3	26.7
5 電気・電子部品	(n=29)	24.1	44.8	68.9	31.0
6 一般機械(金型・機械工具を含む)	(n=52)	3.8	61.5	65.3	34.6
7 化学品、石油製品	(n=37)	10.8	51.4	62.2	37.8
8 医薬品	(n=13)	15.4	46.2	61.6	38.5
9 金属製品(メッキ加工を含む)	(n=10)	10.0	50.0	60.0	40.0
10 精密機械	(n=10)	0.0	50.0	50.0	50.0
11 プラスチック製品	(n=18)	0.0	27.8	27.8	72.2

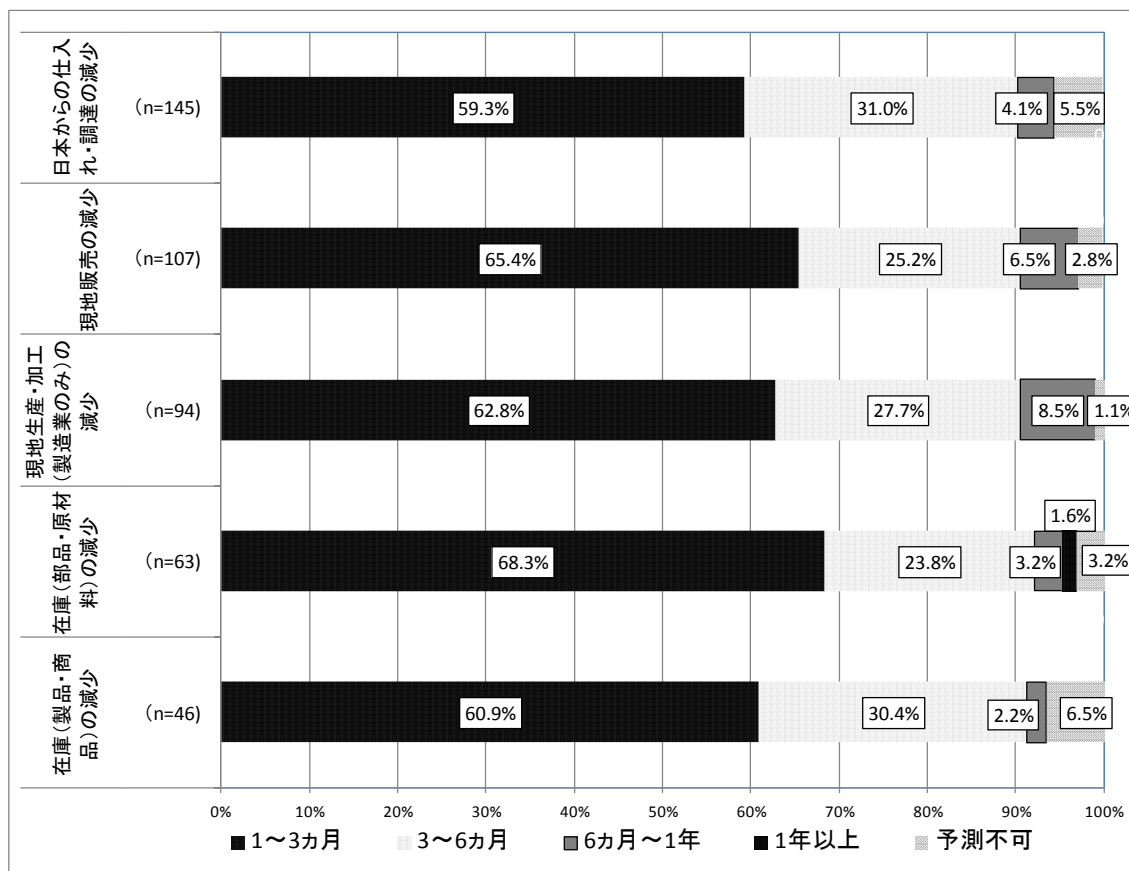
2. 東日本大震災の影響内容

震災の影響の具体的内容については、「日本からの仕入れ・調達の減少」が145社と第1位だった。【図表44】影響の期間は6ヵ月未満とした企業がほとんどであり、特に3ヵ月未満の企業が約6割を占めた。震災による在欧州・トルコ日系製造業への影響は全体としては比較的短期間で収束したと考えられる。【図表45】

図表 44 東日本大震災の影響の具体的内容

1	日本からの仕入れ・調達の減少	145社
2	現地販売の減少	109社
3	現地生産・加工（製造業のみ）の減少	95社
4	在庫（部品・原材料）の減少	65社
5	在庫（製品・商品）の減少	47社

図表 45 東日本大震災による事業活動への影響の期間

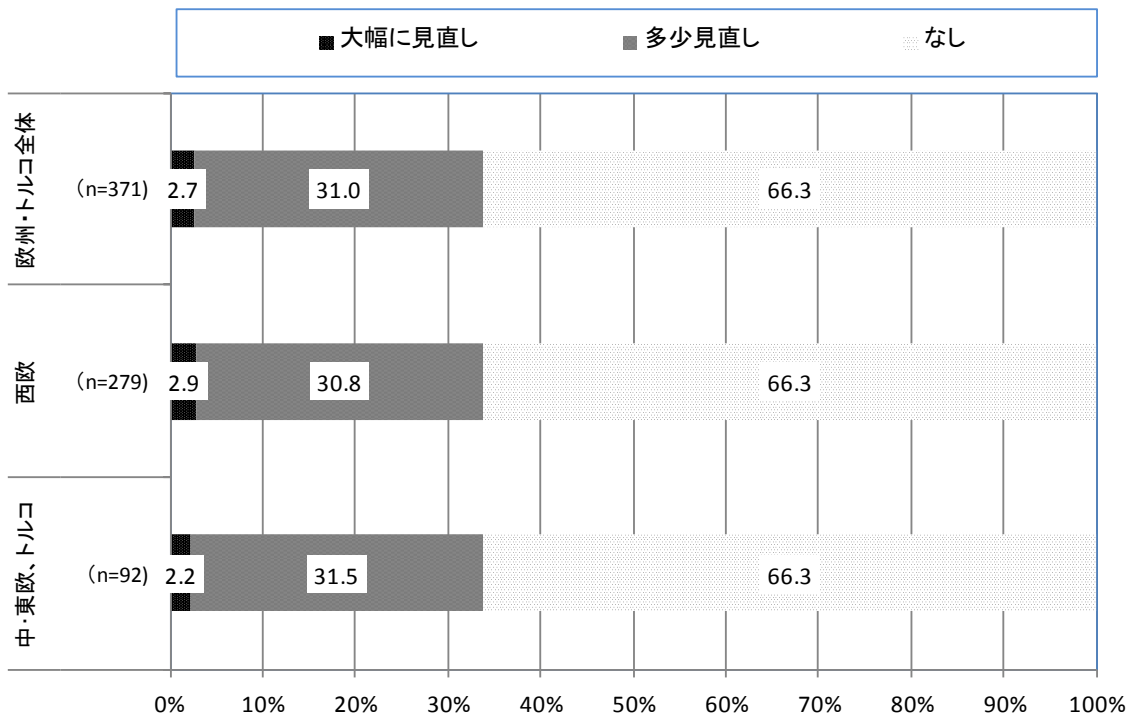


3. 震災後の事業戦略・方針

(1) 事業戦略・方針見直しの有無

震災後、事業戦略・方針を見直しについて、「大幅に見直した」が2.7%で、「多少見直した」31.0%、「見直ししなかった」66.3%と見直ししなかった企業が圧倒的に多かった。【図表 46】

図表46 大震災後の事業戦略・方針の見直し

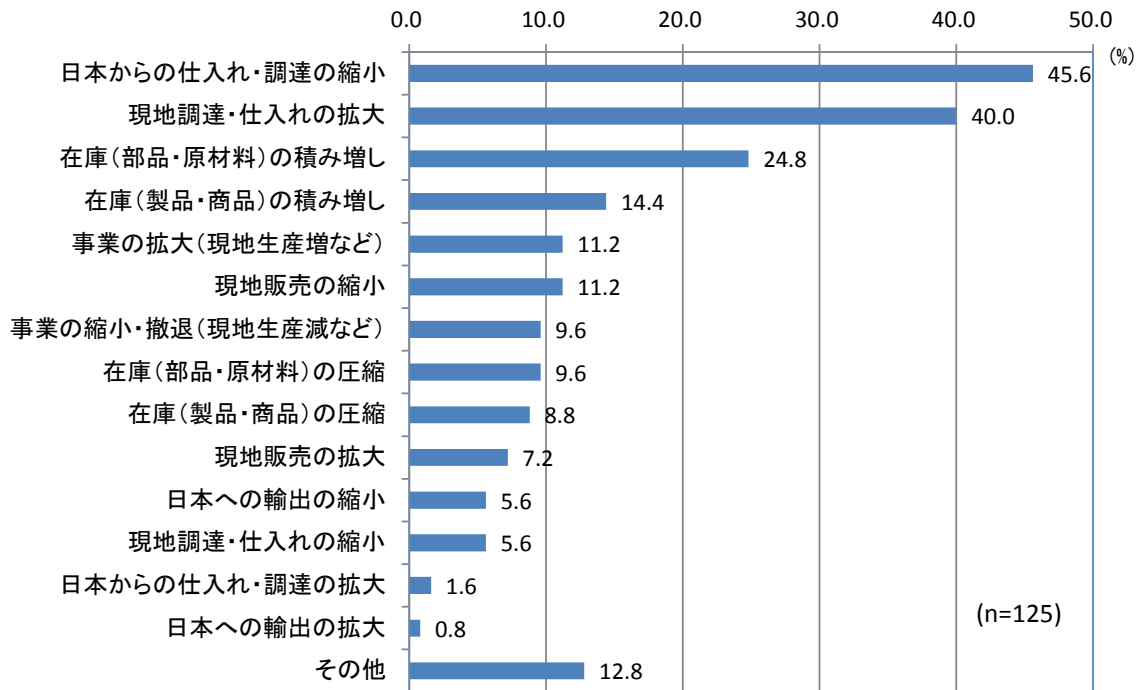


(2) 具体的な事業戦略・方針見直しの内容

震災後、事業戦略・方針の具体的な内容は「日本からの仕入れ・調達」の縮小が、見直した企業全体の45.6%と最も多かった。次いで「現地調達・仕入れの拡大」(40.0%)、「在庫(部品・原材料)の積み増し」(24.8%)となっている。【図表 47】

また、見直しなかった理由としては、「既にサプライチェーンが復旧」が44.3%と最も多く、「日本からの代替の難しい部品・原材料を仕入れている」(23.9%)、「従前、調達先を分散してきた」(22.4%)と続いた。【図表 48】

図表47 具体的な見直し方針<複数回答>



図表48 見直さなかった理由<複数回答>

